

《専門科目》

科目名	保育実習指導Ⅱ				
担当者氏名	佐藤 牧子、相田 まり				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

「保育実習Ⅱ」における豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて中心的に学ぶ。

- ①「保育実習Ⅱ」の意義、目的、内容の理解
- ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえた保育実践力の育成
- ③実習の総括と自己評価及び保育に対する課題や認識の明確化

《授業の到達目標》

- ①「保育実習Ⅱ」の意義・目的・内容について説明することができる。
- ②創造的表現力等、保育士として乳幼児と関わるうえで必要な技能を身につけて表現することができる。
- ③保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。
- ④保育に対する自己の課題を説明することができる。

《成績評価の方法》

模擬保育・保育技術などの発表40%、提出物60%で評価し総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

- 『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』2023, ○『改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』2023○実習の手引き（国際学院埼玉短期大学）

《参考図書》

- 『全国保育士会倫理綱領ガイドブック 改訂2版』
- 保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル社
- 汐見稔幸「保育所保育指針ハンドブック2017年告示版」学研

《授業時間外学習》

授業内容の予習・復習のほか、保育実習にかかわる活動（読み聞かせや手遊びの練習）を自己学習の中で行う。また、教材研究、指導案の作成を行う。本科目は自己学習として15時間以上を要する。

《課題に対するフィードバック等》

授業時間内や次授業においてフィードバックをする。グループワークへの支援・発言へのコメントや提出課題の振り返りを通して、実習に臨む姿勢や様々な知識・技術の獲得を支援する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	保育実習Ⅰの振り返り授業計画について(佐・相)	保育実習指導Ⅱの授業の進め方の確認、保育実習Ⅰにおけるエピソードや学習内容についての振り返り(グループワーク) [時間外学習] 保育実習Ⅰの日誌を見直しておく。
2	実習の意義・保育士の役割と生活(佐藤)	保育実習の意義、保育士の資質と役割についての理解、保育所の生活についての事例研究 [時間外学習] 保育所保育指針についてテキストを参考に予習しておく。
3	保育の一日の流れ、実習園に対する理解(相田)	保育の現場における一日(映像視聴)、実習園についての理解と学習(ワークシート) [時間外学習] 予め実習園についての基本情報を収集しておく。
4	子ども理解と保育事例の研究(相田)	多様な子どものニーズや抱える課題について理解、子どものもつ課題に対する事例研究(ディスカッション) [時間外学習] ディスカッションの内容を見直し考えを深める。
5	子育て支援と保育事例の研究(佐藤)	保育の現場における保護者支援についての理解、保護者支援の実際(グループワーク) [時間外学習] グループワークの内容を見直し考えを深める。
6	日誌の書き方(観察と記録)(相田)	保育現場における観察の視点の学習(グループワーク)、日誌における記録の方法(ワークシート) [時間外学習] 保育実習Ⅰの日誌を見直し課題点を明らかにしておく。
7	日誌の書き方(エピソード記録の書き方)(佐藤)	エピソード記録の書き方の学習、日誌におけるエピソード記録の練習(ワークシート) [時間外学習] 学習内容をもとにワークシートを完成させる。
8	指導計画立案(責任実習)(佐藤)	保育実習Ⅱにおける責任実習の目的と内容についての確認 [時間外学習] 授業内容をもとに指導計画の立案を行う。(ワークシート)
9	指導計画の検討(責任実習)(相田)	保育実習Ⅱを想定した責任実習の内容の精査、指導計画の検討(ディスカッション) [時間外学習] 自身の指導計画について発表する準備をしておく。
10	模擬保育(年少児)(佐藤・相田)	年少児模擬保育実践(グループワーク・プレゼンテーション)、実践に対する見直し [時間外学習] 年少児とのかかわりについてテキストを参考に予習しておく。
11	模擬保育(年長児)(佐藤・相田)	年長児模擬保育実践(グループワーク・プレゼンテーション)、実践に対する見直し [時間外学習] 年長児とのかかわりについてテキストを参考に予習しておく。
12	実習前試験 保育教材の研究①(佐藤)	①実習前試験(60点以上が合格)②絵本・手遊び・紙芝居についての事例研究、題材の検討と制作 [時間外学習] 実習に向けて主活動の内容を検討する。
13	保育教材の研究② 教材の実践と見直し(佐・相)	題材の制作、教材の実践と見直し(グループワーク) [時間外学習] 実習に向けて主活動を行う準備をする。
14	学長講話 実習直前指導(佐藤)	保育実習Ⅱに向かう姿勢、緊急連絡、提出物、実習における評価等の確認、実習課題の確認(グループワーク) [時間外学習] 保育実習Ⅱにおける実習課題を明確にしておく。
15	※後期に実施	※本科目は通年15回開講科目である。

《専門科目》

科目名	保育実習指導Ⅱ				
担当者氏名	佐藤 牧子、相田 まり				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

「保育実習Ⅱ」における豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて中心的に学ぶ。

- ①「保育実習Ⅱ」の意義、目的、内容の理解
- ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえた保育実践力の育成
- ③実習の総括と自己評価及び保育に対する課題や認識の明確化

《授業の到達目標》

- ①「保育実習Ⅱ」の意義・目的・内容について説明することができる。
- ②創造的表現力等、保育士として乳幼児と関わるうえで必要な技能を身につけて表現することができる。
- ③保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。
- ④保育に対する自己の課題を説明することができる。

《成績評価の方法》

模擬保育・保育技術などの発表40%、提出物60%で評価し総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

- 『改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』2023, ○『改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』2023○実習の手引き (国際学院埼玉短期大学)

《参考図書》

- 『全国保育士会倫理綱領ガイドブック 改訂2版』
- 保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル社
- 汐見稔幸「保育所保育指針ハンドブック2017年告示版」学研

《授業時間外学習》

授業内容の予習・復習のほか、保育実習にかかわる活動(読み聞かせや手遊びの練習)を自己学習の中で行う。また、教材研究、指導案の作成を行う。本科目は自己学習として15時間以上を要する。

《課題に対するフィードバック等》

授業時間内や次授業においてフィードバックをする。グループワークへの支援・発言へのコメントや提出課題の振り返りを通して、実習に臨む姿勢や様々な知識・技術の獲得を支援する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	事後指導・今後の課題 (佐藤・相田)	保育実習Ⅱと本授業の振り返り、卒業後の進路の展望と自己課題の明確化 [時間外学習] 実習日誌を見直し、気づきや課題について考えを深める。
2	/	/
3	/	※本科目は通年15回開講科目である。
4	/	/
5	/	/
6	/	/
7	/	/
8	/	/
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《専門科目》

科目名	保育実習指導Ⅲ				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

保育士の職域は広がっており、児童福祉施設や障害者支援施設等における専門職としての活躍が求められる。本科目では「保育実習Ⅲ」では、施設保育士に必要な基礎的知識・技術、職業倫理などをもとに、実際の現場において必要となる観察のポイント、情報収集の整理の仕方、チームワークをすすめていく上で必要なコミュニケーションスキルについてグループ討議などを通して学ぶ。

《授業の到達目標》

- ①福祉施設の役割と機能を体験を基に具体的に説明できる。
- ②児童家庭福祉・社会的養護・障害者福祉に係る理解を基に、家庭や地域での生活実態に即した保護者・家庭支援のための知識、技術について論じることができる。
- ③保育士や支援員の業務内容・職業倫理について具体的に理解し、実践に適用できる。
- ④専門職としての自己の課題を明確に述べることができる。

《成績評価の方法》

実習前試験60%，グループワークや授業における発言20%，実習書類・提出課題20%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

- 守巧他 施設実習パーフェクトガイド～全施設掲載～ 改訂版 わかば社，2023
- 「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

- 全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会発行，2018
- 津田望監修 「認知・言語・運動プログラム 発達障がい児のためのグループ指導」明治図書，2008

《授業時間外学習》

これまでに学習してきた科目、および、保育実習指導I（施設）、保育実習I（施設）で学んだ内容を復習してください。授業の中で明確となった、個々の目標などを確認しながら、実習に取り組み、事後学習を通して、施設保育士への理解を深めてください。（本科目の時間外学習時間は15時間です。）

《課題に対するフィードバック等》

各自の実習の振り返りをグループで共有し、討議していきます。教員は適宜コメントをしますが、メンバー間での話し合いを通じて、多様な考え方を取り入れる姿勢を評価します。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	実習の意義と目的	保育実習Ⅲの意義と目的、実習全体のプロセスを理解する。 予習：教科書②，教科書①該当箇所 復習：授業配布プリント
2	資料作成の方法	保育実習I（施設）を振り返りまとめ、発表資料を作成する。 予習：実習日誌等の振り返り 復習：各自発表資料作成・発表練習
3	実習施設についての情報共有	前回の授業でまとめた各自の実習施設について発表し情報を共有する。 予習：実習日誌等の振り返り 復習：発表内容の整理
4	実習課題の設定・実習日誌の書き方	保育実習I（施設）の振り返りから保育実習Ⅲでの実習課題を明確化する。 予習：実習日誌等の振り返り 復習：実習における自己課題をまとめる
5	施設職員の職種と役割	施設において利用者・利用児を支援する専門職の職種と役割について学ぶ。 予習・復習：児童福祉分野の専門職の職種と役割についてまとめる
6	施設職員の援助技術	対人援助におけるの利用児・者への受容的態度と共感的態度、ニーズを把握する意義とその方法について学ぶ。 予習・復習：授業配布プリント
7	福祉施設利用児・者の理解と権利擁護	「子どもの最善の利益」について学ぶとともに、具体的な場面での実習生の言動について考える。 予習：全国保育士会倫理綱領の復習 復習：授業配布プリント
8	責任実習指導案の立案	施設養護や障害児・者支援についての理解を深め、責任実習の指導案を作成する。 予習・復習：各実習施設の利用者を想定して、責任実習の指導案を作成
9	模擬実習	立案した指導案に沿って模擬責任実習を行い、準備物や環境設定・言葉がけを振り返ることを通して指導案を訂正す 予習・復習：模擬保育の準備と指導案の訂正
10	実習関係書類の作成について	実習先施設や大学へ提出する書類の意義と作成方法について確認する。 予習：教科書②の熟読 復習：実習書類作成
11	各種計画の立案	個別支援計画、自立支援計画の意義と目的を理解し、作成の仕方を学ぶ。 予習・復習：授業配布プリント
12	実習前試験	施設実習実習に関する知識・手続き等、準備事項の理解度を確認する。 予習：これまでの授業の復習 復習：試験結果を振り返る
13	実習に向けての最終確認	実習後の施設への提出物と提出・受取方法、大学への提出物、お礼状の書き方等を確認する。 予習：教科書② 復習：授業配布プリント
14	実習の総括と自己評価	実習先評価や実習日誌・自己評価から、自己課題を明確化する。 予習：実習日誌・自己評価の振り返り 復習：自己課題の明文化
15	-	-本科目は通年15回開講科目である。

《専門科目》

科目名	保育実習指導Ⅲ				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

保育士の職域は広がっており、児童福祉施設や障害者支援施設等における専門職としての活躍が求められる。本科目では「保育実習Ⅲ」では、施設保育士に必要な基礎的知識・技術、職業倫理などをもとに、実際の現場において必要となる観察のポイント、情報収集の整理の仕方、チームワークをすすめていく上で必要なコミュニケーションスキルについてグループ討議などを通して学ぶ。

《授業の到達目標》

- ①福祉施設の役割と機能を体験を基に具体的に説明できる。
- ②児童家庭福祉・社会的養護・障害者福祉に係る理解を基に、家庭や地域での生活実態に即した保護者・家庭支援のための知識、技術について論じることができる。
- ③保育士や支援員の業務内容・職業倫理について具体的に理解し、実践に適用できる。
- ④専門職としての自己の課題を明確に述べることができる。

《成績評価の方法》

実習前試験60%，グループワークや授業における発言20%，実習書類・提出課題20%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

- 守巧他 施設実習パーフェクトガイド～全施設掲載～ 改訂版 わかば社，2023
- 「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

- 全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会発行，2018
- 津田望監修「認知・言語・運動プログラム 発達障がい児のためのグループ指導」明治図書，2008

《授業時間外学習》

これまでに学習してきた科目、および、保育実習指導I（施設）、保育実習I（施設）で学んだ内容を復習してください。授業の中で明確となった、個々の目標などを確認しながら、実習に取り組み、事後学習を通して、施設保育士への理解を深めてください。（本科目の時間外学習時間は15時間です。）

《課題に対するフィードバック等》

各自の実習の振り返りをグループで共有し、討議していきます。教員は適宜コメントをしますが、メンバー間での話し合いを通じて、多様な考え方を取り入れる姿勢を評価します。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	実習報告会・事後指導	実習施設の概要や機能・役割、施設保育士の業務内容とその役割、実習総括と自己評価のまとめと発表をする。 予習：実習成果をまとめる 復習：既習事項を振り返る
2	-	-本科目は通年15回開講科目である。
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門科目》

科目名	教育実習指導Ⅱ				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

あそびを通して豊かな人間性を培う幼児教育の特性をふまえ、幼稚園教諭に求められる保育実践力について学ぶ。教育実習Ⅱ（責任実習）の意義、目的、内容・方法を理解し、実習に必要な記録力、考察力を養う。これまでの実習で得た学びと将来への展望を踏まえた自己課題を明確に示す。加えて、実習の経験をもとにグループワークを行い、自身の子ども観、保育観を構築していく。

《授業の到達目標》

〔事前指導〕○教育実習Ⅱ（責任実習）の目的と概要を理解し説明することができる。○実習に必要な知識、態度、技術を身につけ、説明したり表現したりすることができる。○教育実習Ⅱの自己課題を明確にし、言葉化・文章化することができる。
 〔事後指導〕○実習の振り返りを通して自己の課題を理解し、明確に示すことができる。○実習を通して得られた子ども観、保育観を他者に伝えることができる。

《成績評価の方法》

提出物40%、実習前試験20%、振り返りシート40%で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

①大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習がイト」中央法規2020②小櫃智子他「実習日誌・実習指導案がイト」わかば社2015③「実習の手引き」

《参考図書》

○幼稚園教育要領および同解説
 ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領および同解説
 ○無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研2017
 ○植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006
 ○保育用語辞典
 その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

本科目では、次の事項を中心に、29時間の時間外学修を必要とする。①実習の手引きを常に熟読し活用する。②実習用ファイルを用意し、授業内で配布されたプリントを熟読し、提出物の提出日時に遅れることがないようにする。③部分・責任実習に向けて教材研究を行う。④実習で必要とする文書等を作成する。

《課題に対するフィードバック等》

提出物等は内容を確認した上で受領、コメントを付して返却を行う。また、授業の中で常に必要な情報を口頭にてフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	事前指導：教育実習Ⅱの概要と目的	教育実習Ⅱの意義を理解し、実習のテーマ設定\実習生調書の作成 〔事前学習〕1年次の実習を振り返り、課題について確認する。テキスト③を読む
2	事前指導：オリエンテーションの準備	実習園を理解し、オリエンテーションに向けた書類の作成 〔事前学習〕実習園の概要を調べる。テキスト③を読む
3	事前指導：責任実習の意義\実習前試験	責任実習の意義と実施に向けた準備事項への理解\実習前試験の実施 〔事前学習〕試験に向けて準備する
4	事前指導：実習の記録①日録の書き方	時系列記録とエピソード記録 〔事前学習〕1年次の実習日誌を読み直す。テキスト②40-49を読む
5	事前指導：実習の記録②エピソードの書き方	エピソード（事例）と考察 〔事前学習〕テキスト①92-95を読む
6	事前指導：実習直前指導	実習中のQ&A、実習後の手続きの確認 〔事前学習〕テキスト③「実習前手続きから実習終了について」以降を読む
7		
8		※本科目は、通年8回開講科目である。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	教育実習指導Ⅱ				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

あそびを通して豊かな人間性を培う幼児教育の特性をふまえ、幼稚園教諭に求められる保育実践力について学ぶ。教育実習Ⅱ（責任実習）の意義、目的、内容・方法を理解し、実習に必要な記録力、考察力を養う。これまでの実習で得た学びと将来への展望を踏まえた自己課題を明確に示す。加えて、実習の経験をもとにグループワークを行い、自身の子ども観、保育観を構築していく。

《授業の到達目標》

〔事前指導〕○教育実習Ⅱ（責任実習）の目的と概要を理解し説明することができる。○実習に必要な知識、態度、技術を身につけ、説明したり表現したりすることができる。○教育実習Ⅱの自己課題を明確にし、言葉化・文章化することができる。
 〔事後指導〕○実習の振り返りを通して自己の課題を理解し明確に示すことができる。○実習を通して得られた子ども観、保育観を他者に伝えることができる。

《成績評価の方法》

提出物40%、実習前試験20%、振り返りシート40%で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

①大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習が이드」中央法規2020②小櫃智子他「実習日誌・実習指導案が이드」わかば社2015③「実習の手引き」

《参考図書》

○幼稚園教育要領および同解説
 ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領および同解説
 ○無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研2017
 ○植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006
 ○保育用語辞典
 その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

本科目では、次の事項を中心に、29時間の時間外学修を必要とする。①実習の手引きを常に熟読し活用する。②実習用ファイルを用意し、授業内で配布されたプリントを熟読し、提出物の提出日時に遅れることがないようにする。③部分・責任実習に向けて教材研究を行う。④実習で必要とする文書等を作成する。

《課題に対するフィードバック等》

提出物等は内容を確認した上で受領、コメントを付して返却を行う。また、授業の中で常に必要な情報を口頭にてフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	事後指導：振り返り①子どもと保育者	教育実習振り返り①（グループワーク：子どもの活動と保育者の援助） 〔事前学習〕実習日誌の中のエピソードを読む
2	事後指導：振り返り②自己評価と学び	教育実習振り返り②（自己評価と今後の課題、子どもからと保育者から学んだこと） 〔事前学習〕実習日誌を読み、課題について確認する
3		
4		※本科目は、通年8回開講科目である。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

卒業研究Ⅰの成果を踏まえて、個人研究を進めるとともに、テーマに沿ったグループを構成してグループ研究を進める。調査や研究方法、論文の内容等について指導教員の指導を受け、個人及びグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループ概要及びグループ研究ポスターを作成し、発表に備える。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」「卒業研究論文概要集」
本学の「研究紀要」ほか、授業中に指示する。

《授業の到達目標》

- ①教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や必要な情報収集、実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文概要	卒業研究の取り組み方、卒業論文の構成、卒業研究・卒業論文作成の倫理について知る。＜準備学習＞昨年度の「卒業研究ゼミⅠ」の学修内容を振り返っておく。
2	卒業研究個人研究課題の検討	卒業研究個人研究課題候補を検討、決定する。＜準備学習＞「卒業研究ゼミⅠ」において研究テーマを決定したプロセスや研究内容を振り返っておく。
3	卒業研究個人研究課題の設定	卒業研究個人研究課題を踏まえて、研究グループ構成の準備を進める。＜準備学習＞複数の個人研究のテーマ案について、ゼミ内で情報共有しておく。
4	卒業研究グループ構成の検討	卒業研究個人研究課題に沿ったグループ構成及び研究方法を検討する。（グループワーク）＜準備学習＞個人研究テーマを踏まえてグルーピングの案を考えておく。
5	卒業研究グループ構成の決定	卒業研究グループ研究課題を設定し、研究方法を検討する。（グループワーク）＜準備学習＞個人研究及びそれぞれのSDGsの目標との関係を見直しておく。
6	卒業研究方法の検討	個人研究・グループ研究について、研究方法について検討する。（グループワーク）＜準備学習＞昨年度の「卒業研究ゼミⅠ」における研究方法について情報を集めておく。
7	研究計画の検討	個人研究・グループ研究について、研究計画を作成する。＜準備学習＞前回のグループ協議の内容を整理し、成果物完成の日程を確認しておく。
8	調査・研究準備(1)	研究資料の収集、研究準備、アンケート内容などを検討する。＜準備学習＞「CiNii」「卒論抄録」など、情報収集の方法について確認しておく。
9	調査・研究準備(2)	研究資料の収集、実験などの準備、アンケート用紙などの構成と作成を進める。＜準備学習＞情報収集するべき事柄をリストアップしておく。
10	調査・研究活動(1)	実験・調査・アンケート等の実施①。＜準備学習＞研究テーマとSDGsの目標との関係を見直し、必要な情報が収集できるよう整理しておく。
11	調査・研究活動(2)	実験・調査・アンケート等の実施②。＜準備学習＞授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
12	調査・研究活動(3)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析の準備。＜準備学習＞授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
13	調査・研究活動(4)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析。＜準備学習＞これまでに収集した情報を整理し、研究テーマとの関係を考えておく。
14	調査・研究データの解析	実験・調査・アンケート等の解析。＜準備学習＞ゼミの中で情報交換を進め、自分の研究にも活用できる情報があれば、改めて情報収集しておく。
15	ゼミ全体としての情報共有	調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況を報告し合う。（グループワーク、発表学修）＜準備学習＞収集した情報や解析結果を簡潔に整理し、情報共有に備える。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

各々がテーマを定め、個人研究を進めるとともに、テーマに沿ったグループを構成してグループ研究を進める。調査や研究方法、論文の内容等について指導教員の指導を受け、個人及びグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループ概要及びグループ研究ポスターを作成し、発表に備える。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

- ①教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や必要な情報収集、実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	研究計画の再確認	個人論文、グループ概要、発表用ポスター作成までの日程、手順等を確認する。＜準備学習＞前期までに収集、分析した情報を振り返り整理しておく。
2	個人論文の作成(1)	個人論文の構成を検討する。＜準備学習＞個人論文の書式や項目を確認しておく。
3	個人論文の作成(2)	個人論文について、「はじめに」「方法」の下書きを進める。＜準備学習＞自分の研究とSDGsとの関係について見直し、「はじめに」の下書きに備える。
4	個人論文の作成(3)	個人論文について、「結果」「考察」「おわりに」の下書きを進める。＜準備学習＞「結果」「考察」「おわりに」に書くべき内容を整理し準備しておく。
5	個人論文の作成(4)	下書きの内容を精査し、個人論文の完成を目指す。＜準備学習＞各項目の間の整合性、書き加えるべき内容等について課題を洗い出しておく。
6	グループ概要の作成(1)	グループ員の個人研究を踏まえて、執筆内容や分担を検討する。＜準備学習＞個人論文の中心部分を書き出して用意しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	五峯祭の取組(幼児絵画展表彰式)について、内容や役割分担を検討する。(1・2年生合同)＜準備学習＞昨年の幼児絵画展の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備①	幼児絵画展表彰式運営の準備①：役割の内容や分担について確認する。＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備②	幼児絵画展表彰式運営の準備②：役割、分担ごとに動きを確認し練習をする。＜準備学習＞表彰式の流れを確認し、役割ごとに練習足てい置く。
10	五峯祭当日の取組	第40回幼児絵画展表彰式の運営＜準備学習＞五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに案内・誘導・司会などの練習をしておく。
11	グループ概要の作成(2)	グループ概要の各項目について、下書きを進める。(グループワーク)＜準備学習＞分担ごとに、グループ員の個人研究の内容を整理しておく。
12	グループ概要の作成(3)	グループ概要を完成させ、発表ポスターの内容を検討する。(グループワーク)＜準備学習＞分担ごとの下書きについて、課題となる点について整理して完成に備える。
13	発表ポスターの作成	ポスターセッションの発表方法を確認し、ポスターを作成する。(グループワーク)＜準備学習＞昨年度までのポスター内容を確認しておく。
14	卒業研究発表会リハーサル	グループ概要の内容を踏まえて、より良い発表に向けてリハーサルを行う。(1, 2年生合同)＜準備学習＞パワーポイントを使った発表の練習をしておく。
15	卒業研究発表会	リハーサルの内容を踏まえて、発表する。他ゼミの発表を見て自分たちの取組を振り返る。＜準備学習＞リハーサルの反省点を確認し、発表練習をしておく。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」「卒業研究論文概要集」
本学の「研究紀要」ほか、指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

本ゼミは、健康・幼児体育に関連する領域から各自がテーマを定めて論文を書いた後、テーマの似た者同士でグループを構成し発表に向けてまとめる。論文作成を通し、研究方法や論文の構成等について学ぶ。個々の研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文を作成するとともに、グループ発表に向けて概要・資料を作成する。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

- ①教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、研究テーマへの理解度20%、ゼミナールへの参加意欲20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究概要集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の時間外学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、個人若しくはゼミ全体に対して、適宜指導・助言を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文概要	卒業研究の取り組み方 卒業論文の構成 卒業研究・卒業論文作成の倫理 [準備学習] 令和6年度卒業研究・特別研究論文抄録集を読む
2	卒業研究個人研究課題の設定 (1)	卒業研究個人研究課題候補の提示とディスカッション [準備学習] 興味のあるテーマを考える
3	卒業研究個人研究課題の設定 (2)	卒業研究個人研究課題の提示とディスカッション [準備学習] 興味あるテーマについて先行研究を調べる
4	卒業研究個人研究課題の設定 (3)	卒業研究個人研究課題の提示とディスカッション [準備学習] 興味あるテーマについて先行研究を調べる
5	卒業研究個人研究の研究手法の検討 (1)	卒業研究個人研究テーマに関する研究方法を検討する [準備学習] テーマに関する先行研究から研究方法を調べる
6	卒業研究個人研究の研究手法の検討 (2)	卒業研究個人研究テーマ、研究方法を決定し、研究計画を立てる [準備学習] テーマに関する先行研究から研究方法を調べる
7	個人研究の調査・研究準備(1)	各自の計画にそって、調査・研究を進める [準備学習] テーマに関する先行研究を調べる
8	個人研究の調査・研究準備(2)	各自の計画にそって、調査・研究を進める [準備学習] テーマに関する先行研究を調べる
9	個人研究の調査・研究活動(3)	各自の計画にそって、調査・研究を進める [準備学習] テーマに関する先行研究を調べる
10	グループ論文の準備 (1)	グループ論文に向けて、グルーピングと個人研究の進捗状況の把握 (プレゼンテーション) [準備学習] プレゼンテーションに向けて、個人研究の進捗状況をまとめる
11	個人研究の調査・研究活動(4)	各自の計画にそって、調査・研究を進める [準備学習] グループ論文を意識し、研究計画を見直す
12	個人研究の調査・研究活動(5)	個人論文「はじめに」を書く [準備学習] テーマに関する先行研究をまとめる
13	個人研究の調査・研究活動(6)	個人論文「はじめに」と「研究方法」を書く [準備学習] テーマに関する先行研究をまとめる
14	グループ論文の準備 (2)	グループ論文の枠組みを考える [準備学習] 個人研究の調査で得た知見を文章でまとめる
15	ゼミ全体としての情報共有	調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告 (グループワーク、発表学修) [準備学習] 発表に向けて、グループ研究の枠組みをまとめる

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

本ゼミは、健康・幼児体育に関連する領域から各自がテーマを定めて論文を書いた後、テーマの似た者同士でグループを構成し、発表に向けてまとめる。論文作成を通し、研究方法や論文の構成等について学ぶ。個々の研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文を作成するとともに、グループ発表に向けて概要・資料を作成する。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

- ①教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、研究テーマへの理解度20%、ゼミナールへの参加意欲20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	研究計画の再確認	個人論文、グループ論文、グループ論文抄録、ポスター作成までの日程、手順等の確認 [準備学習] 前期および夏季休暇中の進捗状況をまとめる
2	個人論文の作成(1)	個人論文の構成検討 [準備学習] 収集した資料を整理する
3	個人論文の作成(2)	個人論文「結果」の構成を考える [事後学習] 結果を書く
4	個人論文の作成(3)	個人論文「考察」を考える [事後学習] 考察を書く
5	個人論文の作成(4)	個人論文「まとめ」を考える [事後学習] まとめを書く
6	グループ研究概要の作成(1)	グループ研究の枠組みの再構成と執筆分担を行う(グループワーク) [準備学習] グループメンバーの論文を読み込む
7	グループ研究概要の作成(2)	グループ研究の「考察」「まとめ」を考える(グループワーク) [事後学習] 執筆分担にそって書き進める
8	五峯祭の準備(1)	コーナー遊びの準備をする [事前学習] コーナー遊びに必要なものを準備する
9	五峯祭の準備(2)	コーナー遊びの準備をする [事前学習] コーナー遊びに必要なものを準備する
10	五峯祭	来場者の活動を援助する [事後学習] 五峯祭での活動を振り返り、学びをまとめる
11	グループ研究概要の作成(3)	概要の検討および作成、電子データ取りまとめる(グループワーク) [事後学習] 概要を完成させる
12	発表資料の作成(1)	発表方法を確認し、グループ研究内容の集約と発表内容を検討する(グループワーク) [準備学習] 各自が使用するデータを整える
13	発表資料の作成(2)	発表資料の作成、電子データの取りまとめ、発表練習(グループワーク) [準備学習] 発表資料を完成させる
14	研究成果の発表	グループごとに研究結果の発表、相互評価(グループワーク、発表学修)個人論文、グループ研究概要の提出準備 [事後学習] 提出物を修正する
15	卒業研究発表会	グループ研究の成果を発表する [事前学習] 発表に向けて最終調整をする

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究概要集」
本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の時間外学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、個人若しくはゼミ全体に対して、適宜指導・助言を行う。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	古木 竜太、越智 光輝、大野 琴絵				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

多くの幼稚園や保育園では、「表現発表会」という年中行事がある。この表現発表会では主にオペレッタ、リズム劇や遊戯などが行われ、クラス担任が指導・援助しているケースが多い。そこで、本授業では、歌や踊り、台詞の練習、衣装や舞台装置の製作など、グループワークを通じて総合的にオペレッタを学び、その学修成果を本学の文化祭（五峯祭）や学外施設で披露する。

《授業の到達目標》

オペレッタに関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。①本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような演技方や歌い方を修得し、実践できる。②子どもが演じることを念頭に置き、表現領域に関する指導・援助の留意点について説明できる。③担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、活動記録などの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

- ①『たのしいオペレッタ』音楽之友社
- ②浅野ななみ『浅野ななみの発表会はお・ま・か・せ 劇あそびとミニオペレッタ CDつき保育選書』ひかりのくに
- ③本学の「卒業研究概要集」

《授業時間外学習》

履修者専用のTEAMSを作成し、毎回の授業の活動内容について記述する。パフォーマンスは適宜、動画で撮影してTEAMSに保存する。デジタル背景などデータで保存できる製作物もTEAMSにおいて共有する。総合表現の質向上を目標として自主練習や自主製作を行う。

《課題に対するフィードバック等》

履修者専用TEAMSを活用して、指導教員からその都度適宜指導・助言する。助言内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	総合表現活動としてのオペレッタ	参考に前年度までのビデオ観賞、配役、台本の決定〔準備学習〕練習に取り組む演目の台本について加筆や修正事項をまとめておくこと（復習1時間）
2	担当分野および配役の検討	音楽表現、造形表現、身体表現の活動内容を理解し、担当分野を検討する。〔準備学習〕自己の担当する分野の活動内容について事前調査を行う。（予習1時間）
3	担当分野の活動（1）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
4	担当分野の活動（2）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
5	担当分野の活動（3）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
6	担当分野の活動（4）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
7	担当分野の活動（5）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
8	担当分野の活動（6）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
9	担当分野の活動（7）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
10	担当分野の活動（8）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
11	担当分野の活動（9）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
12	担当分野の活動（10）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
13	担当分野の活動（11）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
14	小発表会のためのリハーサル（プレ本番）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
15	作品小発表会	前期の学習内容のまとめとして、ゼミ内で小発表会を行う。〔準備学習〕前期授業の総括、自他のパフォーマンスを振り返り、課題などレポートにまとめる（復習1時間）。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	古木 竜太、越智 光輝、大野 琴絵				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

多くの幼稚園や保育園では、「表現発表会」という年中行事がある。この表現発表会では主にオペレッタ、リズム劇や遊戯などが行われ、クラス担任が指導・援助しているケースが多い。そこで、本授業では、歌や踊り、台詞の練習、衣装や舞台装置の製作など、グループワークを通じて総合的にオペレッタを学び、その学修成果を本学の文化祭（五峯祭）や学外施設で披露する。

《授業の到達目標》

オペレッタに関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。①本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような演技方や歌い方を修得し、実践できる。②子どもが演じることを念頭に置き、表現領域に関する指導・援助の留意点について説明できる。③担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、活動記録などの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

- ①『たのしいオペレッタ』音楽之友社
- ②浅野ななみ『浅野ななみの発表会はお・ま・か・せ 劇あそびとミニオペレッタ CDつき保育選書』ひかりのくに
- ③本学の「卒業研究概要集」

《授業時間外学習》

履修者専用のTEAMSを作成し、毎回の授業の活動内容について記述する。パフォーマンスは適宜、動画で撮影してTEAMSに保存する。デジタル背景などデータで保存できる制作物もTEAMSにおいて共有する。総合表現の質向上を目標として自主練習や自主製作を行う。

《課題に対するフィードバック等》

履修者専用TEAMSを活用して、指導教員からその都度適宜指導・助言する。助言内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	担当分野の活動（1）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
2	担当分野の活動（2）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
3	担当分野の活動（3）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
4	担当分野の活動（4）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
5	担当分野の活動（5）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
6	担当分野の活動（6）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
7	担当分野の活動（7）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
8	担当分野の活動（8）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
9	担当分野の活動（9）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
10	担当分野の活動（10）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
11	担当分野の活動（11）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
12	担当分野の活動（12）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
13	担当分野の活動（13）	音楽表現、造形表現、身体表現に分かれて活動する。〔準備学習〕 担当する内容に関する自主練習や製作（予習・復習1時間）
14	卒研発表会のためのリハーサル	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔準備学習〕 自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
15	卒業研究発表会での上演	2年間のまとめとして、卒業研究発表会で上演する。〔準備学習〕 これまでの本番舞台のパフォーマンスを振り返り、練習する。（予習1時間）。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

特別支援保育に関連する内容について各々がテーマを決め、個人論文を書く。テーマが共通するメンバーでグループを構成し、研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文およびグループ発表の準備を行う。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。フィールドワークとして学外授業に取り組むこともある。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究概要集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業の到達目標》

- ①教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文概要	卒業研究の取り組み方 卒業論文の構成 卒業研究・卒業論文作成の倫理 <準備学習>昨年度の「プレゼミ」の学修内容を振り返っておく。
2	ゼミのテーマ理解と先行文献の調べ方	特別支援保育ゼミの共通テーマを知り、先行文献の調べ方を学ぶ <準備学習>「CiNi」「卒論抄録」など、情報収集の方法について確認しておく。
3	卒業研究個人研究課題の設定とグループの決定	卒業研究個人研究課題の選定 研究グループの決定 <準備学習>複数の個人研究のテーマ案について、ゼミ内で情報共有しておく。
4	先行文献の調査	卒業研究個人研究課題に沿った研究方法の検討(グループワーク) <準備学習>個人研究テーマに沿った文献を調べる
5	先行文献のまとめ方	卒業研究グループ研究課題の設定と研究方法の検討及びディスカッション(グループワーク) <準備学習>個人研究とSDGsの目標との関係を見直しておく。
6	研究方法と研究計画	個人研究・グループ研究について、研究方法に関するディスカッション(グループワーク) <準備学習>昨年度の「プレゼミ」で調べた情報を整理しておく。
7	研究計画と研究依頼について	個人研究・グループ研究について、研究計画の作成 <準備学習>前回のグループ協議の内容を整理しておく。
8	調査準備のための情報収集	アンケート用紙などの構成と作成 <準備学習>情報収集するべき事柄をリストアップしておく。
9	調査資料の作成	研究資料の収集 実験などの準備 アンケート用紙などの構成と作成 <準備学習>情報収集するべき事柄をリストアップしておく。
10	調査の実施	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習>研究テーマとSDGsの目標との関係を見直し、必要な情報が収集できるよう整理しておく。
11	調査結果の収集	実験・調査・アンケート等の実施 <準備学習>授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
12	調査・研究データの分析準備	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析の準備 <準備学習>授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
13	調査・研究結果の入力	実験・調査・アンケート等の集計、結果の入力 <準備学習>これまでに収集した情報を整理し、研究テーマとの関係を考えておく。
14	調査・研究データの解析	実験・調査・アンケート等の解析<準備学習>ゼミの中で情報交換を進め、自分の研究にも活用できる情報があれば、改めて情報収集しておく。
15	ゼミ全体としての情報共有	1, 2年合同:調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告 <準備学習>収集した情報や解析結果を簡潔に整理し、情報共有に備える。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

個々の研究テーマに沿って個人論文の執筆をすすめる。グループ発表に向けた追加資料の収集・分析を行い、グループ内の討議を深める。個人論文とグループ発表の概要および掲示資料を作成し、ポスター発表をおこなう。特別支援保育についての社会的な課題を考察し、実践とのつながりを踏まえ、論理的にまとめていく。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究概要集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。”

《授業の到達目標》

- ①教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	個人論文の構成検討	個人論文の構成検討<準備学習>個人論文の書式や項目を確認しておく。
2	方法のまとめ方	個人論文 「はじめに」「方法」の下書き<準備学習>自分の研究とSDGsとの関係について見直し、「はじめに」の下書きに備える。
3	結果のまとめ方	個人論文の「結果」を作成する。 <準備学習>「結果」に書くべき内容を整理し準備しておく。
4	考察のまとめ方	個人論文の「考察」「おわりに」を作成する。 <準備学習>個人論文の考察の下書きをしておく。
5	個人論文の作成	文献などをを含め、書式に沿って個人論文を完成させる。 <準備学習>個人論文の下書きを完成させる
6	グループ研究のまとめ	個人論文をグループでまとめてパワーポイントを作成する<準備学習>グループの個人論文の内容を確認しておく。
7	グループ発表の役割分担についての検討	1、2年合同「特別支援保育ゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。<準備学習>五峯祭で展示する内容を整理しておく。
8	研究成果物の作成 (五峯祭準備1日目)	「特別支援保育ゼミ」の活動を発表するために必要な成果物を作成する <準備学習>取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	研究成果物の展示 (五峯祭準備2日目)	「特別支援保育ゼミ」の活動を発表するために必要な成果物を展示する。 <準備学習>役割分担について考えておく。
10	研究成果物の公開 (五峯祭当日)	「特別支援保育ゼミ」の活動内容を五峯祭で展示する <準備学習>分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	研究活動の振り返り	グループ活動をグループ概要にまとめる。<準備学習>五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	グループ概要の作成	グループ概要の検討および作成、電子データとりまとめ(グループワーク)<準備学習>図書館でグループ概要を複数編読んでイメージを作っておく。
13	グループ発表台本の作成	台本を作成する。方法確認、論文内容の集約とポスター内容の検討(グループワーク)<準備学習>ポスター発表資料を完成させる。
14	ゼミ内研究発表	1、2年合同:グループ研究の成果を共有する <準備学習>パワーポイントの操作方法を確認しておく。
15	卒業研究発表会	グループごとに卒業研究発表をおこない、終了後に振り返りをする。<準備学習>発表台本を読んでおく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

各々がテーマを定め、テーマに沿ったグループを構成して論文を書く。各ゼミの指導教員が調査や研究方法、論文の内容等について指導を行う。個人及びグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループ概要を作成し、発表に備える。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究概要集」
 本学の「研究紀要」ほか、授業中に指示する。

《授業の到達目標》

- ①教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文概要	卒業研究の取り組み方 卒業論文の構成 卒業研究・卒業論文作成の倫理 <準備学習>昨年度の「プレゼミ」の学修内容を振り返っておく。
2	卒業研究個人研究課題の検討	卒業研究個人研究課題候補の提示とディスカッション<準備学習>「プレゼミ」において研究テーマを決定したプロセスを振り返っておく。
3	卒業研究個人研究課題の設定	卒業研究個人研究課題の選定、研究グループ構成の検討準備<準備学習>複数の個人研究のテーマ案について、ゼミ内で情報共有しておく。
4	卒業研究グループ構成の検討	卒業研究個人研究課題に沿ったグループ構成の検討、研究方法の検討(グループワーク) <準備学習>個人研究テーマを踏まえてグルーピングの案を考えておく。
5	卒業研究グループ構成の決定	卒業研究グループ研究課題の設定と研究方法の検討及びディスカッション(グループワーク) <準備学習>個人研究とSDGsの目標との関係を見直しておく。
6	卒業研究方法の検討	個人研究・グループ研究について、研究方法に関するディスカッション(グループワーク) <準備学習>昨年度の「プレゼミ」における研究方法について情報を集めておく。
7	研究計画の検討	個人研究・グループ研究について、研究計画の作成<準備学習>前回のグループ協議の内容を整理しておく。
8	調査・研究準備(1)	研究資料の収集 研究準備 アンケート内容などの検討<準備学習>「CiNii」「卒論抄録」など、情報収集の方法について確認しておく。
9	調査・研究準備(2)	研究資料の収集 実験などの準備 アンケート用紙などの構成と作成<準備学習>情報収集すべき事柄をリストアップしておく。
10	調査・研究活動(1)	験・調査・アンケート等の実施<準備学習>研究テーマとSDGsの目標との関係を見直し、必要な情報が収集できるよう整理しておく。
11	調査・研究活動(2)	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習>授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
12	調査・研究活動(3)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析の準備<準備学習>授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
13	調査・研究活動(4)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析<準備学習>これまでに収集した情報を整理し、研究テーマとの関係を考えておく。
14	調査・研究データの解析	実験・調査・アンケート等の解析<準備学習>ゼミの中で情報交換を進め、自分の研究にも活用できる情報があれば、改めて情報収集しておく。
15	ゼミ全体としての情報共有	調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告(グループワーク、発表学修)<準備学習>収集した情報や解析結果を簡潔に整理し、情報共有に備える。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

各々がテーマを定め、テーマに沿ったグループを構成して論文を書く。各ゼミの指導教員が調査や研究方法、論文の内容等について指導を行う。個人及びグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループ概要を作成し、発表に備える。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究概要集」
 本学の「研究紀要」ほか、授業中に指示する。

《授業の到達目標》

- ①教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文概要	卒業研究の取り組み方 卒業論文の構成 卒業研究・卒業論文作成の倫理 <準備学習>昨年度の「プレゼミ」の学修内容を振り返っておく。
2	卒業研究個人研究課題の検討	卒業研究個人研究課題候補の提示とディスカッション<準備学習>「プレゼミ」において研究テーマを決定したプロセスを振り返っておく。
3	卒業研究個人研究課題の設定	卒業研究個人研究課題の選定、研究グループ構成の検討準備<準備学習>複数の個人研究のテーマ案について、ゼミ内で情報共有しておく。
4	卒業研究グループ構成の検討	卒業研究個人研究課題に沿ったグループ構成の検討、研究方法の検討(グループワーク) <準備学習>個人研究テーマを踏まえてグルーピングの案を考えておく。
5	卒業研究グループ構成の決定	卒業研究グループ研究課題の設定と研究方法の検討及びディスカッション(グループワーク) <準備学習>個人研究とSDGsの目標との関係を見直しておく。
6	卒業研究方法の検討	個人研究・グループ研究について、研究方法に関するディスカッション(グループワーク) <準備学習>昨年度の「プレゼミ」における研究方法について情報を集めておく。
7	研究計画の検討	個人研究・グループ研究について、研究計画の作成<準備学習>前回のグループ協議の内容を整理しておく。
8	調査・研究準備(1)	研究資料の収集 研究準備 アンケート内容などの検討<準備学習>「CiNii」「卒論抄録」など、情報収集の方法について確認しておく。
9	調査・研究準備(2)	研究資料の収集 実験などの準備 アンケート用紙などの構成と作成<準備学習>情報収集すべき事柄をリストアップしておく。
10	調査・研究活動(1)	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習>研究テーマとSDGsの目標との関係を見直し、必要な情報が収集できるよう整理しておく。
11	調査・研究活動(2)	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習>授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
12	調査・研究活動(3)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析の準備<準備学習>授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
13	調査・研究活動(4)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析<準備学習>これまでに収集した情報を整理し、研究テーマとの関係を考えておく。
14	調査・研究データの解析	実験・調査・アンケート等の解析<準備学習>ゼミの中で情報交換を進め、自分の研究にも活用できる情報があれば、改めて情報収集しておく。
15	ゼミ全体としての情報共有	調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告(グループワーク、発表学修)<準備学習>収集した情報や解析結果を簡潔に整理し、情報共有に備える。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

各々がテーマを設定し、テーマに沿ったグループを構成して論文を書く。調査・分析や論文作成の方法等については適宜助言・指導を行う。個人およびグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集・分析・議論を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループの概要を作成し、発表に備える。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究概要集」
本学の「研究紀要」ほか、授業中に適宜指示する。

《授業の到達目標》

- ①教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究の進め方について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文とは	卒業研究の取り組み方、研究倫理、論文の構成について ＜準備学習＞昨年度の「プレゼミ」の学修内容を振り返っておく。
2	個人研究課題の検討	個人研究課題の候補の提示とディスカッション ＜準備学習＞プレゼミにおいて研究テーマを決定したプロセスを振り返っておく。
3	個人研究課題の設定	個人研究課題の選定、研究グループ構成の検討準備 ＜準備学習＞複数の個人研究のテーマ案について、ゼミ内で情報共有しておく。
4	グループ構成の検討	個人研究課題に沿ったグループ構成の検討、研究方法の検討（グループワーク） ＜準備学習＞個人研究テーマを踏まえてグルーピングの案を考えておく。
5	グループ構成の決定	グループ研究課題の設定と研究方法の検討およびディスカッション ＜準備学習＞個人研究とSDGsの目標との関係を見直しておく。
6	研究方法の検討	個人研究・グループ研究について、研究方法を検討する（グループワーク） ＜準備学習＞昨年度の「プレゼミ」における研究方法について情報を集めておく。
7	研究計画の検討	個人研究・グループ研究について、研究計画を作成する ＜準備学習＞前回のディスカッションの内容を整理しておく。
8	調査・研究準備①	研究資料の収集、研究準備、アンケート内容などの検討 ＜準備学習＞「CiNii」「卒論抄録」など、情報収集の方法について確認しておく。
9	調査・研究準備②	研究資料の収集、アンケート用紙などの作成 ＜準備学習＞情報収集すべき事柄をリストアップしておく。
10	調査・研究活動①	調査・アンケート等の実施 ＜準備学習＞研究テーマとSDGsの目標との関係を見直しておく。
11	調査・研究活動②	調査・アンケート等の実施 ＜準備学習＞授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
12	調査・研究活動③	調査・アンケート等の集計、結果分析の準備 ＜準備学習＞授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
13	調査・研究活動④	調査・アンケート等の集計、結果分析 ＜準備学習＞これまでに収集した情報を整理し、研究テーマとの関係を考えておく。
14	調査・研究データの解析	調査・アンケート等の解析 ＜準備学習＞ゼミの中で情報交換を進め、自分の研究にも活用できる情報があれば、改めて情報収集しておく。
15	ゼミ全体としての情報共有	調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告（グループワーク、発表） ＜準備学習＞収集した情報や解析結果を簡潔に整理し、情報共有に備える。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

指導教員の指導の下、研究テーマに沿って個人・グループでの研究を進め、論文の完成に向けて追加資料の収集・分析を行い、議論を深める。個人論文とグループの概要を完成させ、発表資料を作成し、研究成果を発表し合う。優秀なグループ論文については、学科内で研究成果を共有する。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究概要集」
 本学の「研究紀要」ほか、授業中に適宜指示する。

《授業の到達目標》

- ①教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究の進め方について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	研究計画の再確認	個人論文、グループ概要、発表資料作成までの日程、手順等の確認。 <準備学習>前期までに収集・分析した情報を振り返り、整理しておく。
2	個人論文の作成①	個人論文の構成の検討。 <準備学習>個人論文の書式や項目を確認しておく。
3	個人論文の作成②	「はじめに」および「方法」の下書き。 <準備学習>自分の研究とSDGsとの関係について見直し、「はじめに」の下書きに備える。
4	個人論文の作成③	「結果」「考察」「おわりに」の下書き。 <準備学習>「結果」「考察」「おわりに」に書くべき内容を整理しておく。
5	グループ概要の作成①	執筆分担の確認、「考察」内容の検討(グループワーク)。 <準備学習>個人論文を完成させ、個人論文の内容についてグループ内で情報を共有しておく。
6	グループ概要の作成②	執筆分担に沿った下書き(グループワーク)。 <準備学習>自分の分担および、グループのメンバーの個人論文の内容を確認しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	本ゼミとしての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する(1年生ゼミと合同)。 <準備学習>昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備①	五峯祭の取組に向けた準備① <準備学習>取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備②	五峯祭の取組に向けた準備② <準備学習>どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	五峯祭当日の取組 <準備学習>五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ概要の作成③	「結果」の調整と全体のまとめ(グループワーク)。 <準備学習>五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	概要作成	概要内容の検討および作成、電子データとりまとめ(グループワーク)。 <準備学習>図書館でグループ論文の抄録を複数読んでイメージをつくっておく。
13	発表資料の作成	発表方法の確認、グループ論文の内容の集約と発表資料の内容の検討(グループワーク)。 <準備学習>パワーポイントの操作方法を確認しておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。(1年生ゼミと合同) <準備学習>発表資料を仕上げておく。
15	卒業研究発表会	ゼミとしての成果を発表する。 <準備学習>資料を完成させ、発表のリハーサルを行う。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	小笠原 忍				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

心理学に関するテーマを定め、研究を進めていく。教員の指導のもと、調査、分析を行い、その結果をまとめて個人論文を作成する。そのうえで、近い研究テーマの学生でグループを作り、それぞれの研究を持ち寄って統合したものを卒業研究発表会にて発表する。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

授業中適宜指示する。

《授業の到達目標》

- ①専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

自らのテーマを追求するため、授業時間外にも主体的に探究活動にあたること。研究を進めるにあたって合計15時間の授業時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	分析のまとめ①	前年度に分析をおこなったデータを詳細に見返し、分析に不備がないか確認する。(時間外)[予習]データや分析結果を見返す
2	分析のまとめ②	分析結果を確認し先行研究や仮説と見比べる。(時間外)[予習]先行研究または仮説を再確認する
3	分析のまとめ③	分析結果を図表におこす。(時間外)[予習]WordまたはExcelでの図表の作り方を確認する
4	中間発表の準備①	問題提起から結果までを簡潔にまとめ、中間発表ができるように準備する。(時間外)[予習]これまでの研究を再確認する
5	中間発表の準備②	問題提起から結果までを簡潔にまとめ、中間発表ができるように準備する。(時間外)[予習]これまでの研究を再確認する
6	中間発表の準備③	問題提起から結果までを簡潔にまとめ、中間発表ができるように準備する。(時間外)[予習]これまでの研究を再確認する
7	中間発表①	1年生に向けて自分の研究内容、これまでの結果を発表する(時間外)[予習]これまでの研究を再確認する[復習]質問・指摘内容を確認する
8	中間発表②	1年生に向けて自分の研究内容、これまでの結果を発表する(時間外)[予習]これまでの研究を再確認する[復習]質問・指摘内容を確認する
9	分析のまとめ④	中間発表で指摘された内容を確認し、あらためて分析結果を読み込む(時間外)[予習]中間発表の指摘内容を確認する
10	分析のまとめ⑤	中間発表で指摘された内容を確認し、あらためて分析結果を読み込む(時間外)[予習]中間発表の指摘内容を確認する
11	分析のまとめ⑥	分析結果の再確認後、あらためて図表におこして「結果」を執筆する。(時間外)[予習]分析結果を確認する
12	考察①	先行研究などを確認しながら、分析結果から読み取れることを確認する。(時間外)[予習]分析結果と先行研究を確認する
13	考察②	先行研究または仮説と分析結果を比較しながら、考察の骨格を作り上げる。(時間外)[予習]先行研究または仮説を確認する
14	考察③	考察についての骨格に文章を肉付けしていく。(時間外)[予習]考察の骨格を確認する
15	考察④	考察を執筆する。(時間外)[予習]考察の骨格と肉付けした内容を確認する

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	小笠原 忍				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

心理学(特に障害児心理学領域)に関するテーマを定め、研究を進めていく。教員の指導のもと、調査、分析を行い、その結果をまとめて個人論文を作成する。そのうえで、近い研究テーマの学生でグループを作り、それぞれの研究を持ち寄って統合したものを卒業研究発表会にて発表する。

《テキスト》

授業中適宜指示する。

《参考図書》

授業中適宜指示する。

《授業の到達目標》

- ①専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

自らのテーマを追求するため、授業時間外にも主体的に探究活動にあたること。研究を進めるにあたって合計15時間の授業時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容を個人・グループで共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	研究状況の再確認	個人論文、グループ概要、発表用ポスター作成までの日程、手順等を確認する。＜準備学習＞前期までに収集、分析した情報を振り返り整理しておく。
2	考察のふり返し①	執筆した考察を読み込み、その内容をふり返る。(時間外)[予習]考察を読む
3	考察のふり返し②	執筆した考察を近似の研究テーマグループ内で発表する。(時間外)[予習]発表準備[復習]質問・指摘内容を確認する
4	考察のふり返し③	発表で指摘された事項を確認し、考察の修正・追記をする。(時間外)[予習]発表で指摘された内容を確認する
5	引用・参考文献の確認	論文執筆で使用した参考文献を確認し、リストを作成する。(時間外)[予習]使用した参考文献を揃える
6	要約の作成	執筆した論文を200～400字程度で要約する。(時間外)[予習]論文全体を読み込む
7	五峯祭の取組内容の検討	五峯祭の取組(幼児絵画展表彰式)について、内容や役割分担を検討する。(1・2年生合同)＜準備学習＞昨年の幼児絵画展の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備①	幼児絵画展表彰式運営の準備①：役割の内容や分担について確認する。＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備②	幼児絵画展表彰式運営の準備②：役割、分担ごとに動きを確認し練習をする。＜準備学習＞表彰式の流れを確認し、役割ごとに練習足てい置く。
10	五峯祭当日の取組	第40回幼児絵画展表彰式の運営＜準備学習＞五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに案内・誘導・司会などの練習をしておく。
11	個人論文提出の準備	執筆した論文を確認・推敲し、提出の準備をする。(時間外)[予習]執筆内容を確認する[復習]推敲箇所を確認する
12	グループ概要と発表資料の作成①	近似の研究テーマグループでグループ概要と発表資料を作成する。(時間外)[予習]個人論文を確認する[復習]グループ論文を確認する
13	グループ概要と発表資料の作成②	卒業研究発表会の発表準備をする。(時間外)[予習]PowerPointの取り扱いを復習する[復習]発表の準備をする
14	1年生個人研究レポート発表会	1年生の個人研究発表会に参加し、2年生としてのアドバイスをもらう。＜準備学習＞1年生の個人研究のテーマを確認し、アドバイスのポイントを整理しておく。
15	卒業研究発表会	グループ概要、発表ポスターの内容を踏まえて、発表を行う。他ゼミの発表を見て自分たちの取組を振り返る。＜準備学習＞パワーポイントを使った発表の練習をしておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	石部 忠之				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

各々がテーマを定め、テーマに沿ったグループを構成して論文を書く。各ゼミの指導教員が調査や研究方法、論文の内容等について指導を行う。個人及びグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループの概要を作成し、発表に備える。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究概要集」
 本学の「研究紀要」ほか、授業中に指示する。

《授業の到達目標》

- ①教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文概要	卒業研究の取り組み方 卒業論文の構成 卒業研究・卒業論文作成の倫理 <準備学習>昨年度の「プレゼミ」の学修内容を振り返っておく。
2	卒業研究個人研究課題	卒業研究個人研究課題候補の提示とディスカッション<準備学習>「プレゼミ」において研究テーマを決定したプロセスを振り返っておく。
3	卒業研究個人研究課題の設定	卒業研究個人研究課題の選定、研究グループ構成の検討準備<準備学習>複数の個人研究のテーマ案について、ゼミ内で情報共有しておく。
4	卒業研究グループ構成の検討	卒業研究個人研究課題に沿ったグループ構成の検討、研究方法の検討(グループワーク) <準備学習>個人研究テーマを踏まえてグルーピングの案を考えておく。
5	卒業研究グループ構成の決定	卒業研究グループ研究課題の設定と研究方法の検討及びディスカッション(グループワーク) <準備学習>個人研究とSDGsの目標との関係を見直しておく。
6	卒業研究方法の検討	個人研究・グループ研究について、研究方法に関するディスカッション(グループワーク) <準備学習>昨年度の「プレゼミ」における研究方法について情報を集めておく。
7	研究計画の検討	個人研究・グループ研究について、研究計画の作成<準備学習>前回のグループ協議の内容を整理しておく。
8	調査・研究準備(1)	研究資料の収集 研究準備 アンケート内容などの検討<準備学習>「CiNii」「卒論抄録」など、情報収集の方法について確認しておく。
9	調査・研究準備(2)	研究資料の収集 実験などの準備 アンケート用紙などの構成と作成<準備学習>情報収集すべき事柄をリストアップしておく。
10	調査・研究活動(1)	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習>研究テーマとSDGsの目標との関係を見直し、必要な情報が収集できるよう整理しておく。
11	調査・研究活動(2)	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習>授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
12	調査・研究活動(3)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析の準備<準備学習>授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
13	調査・研究活動(4)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析<準備学習>これまでに収集した情報を整理し、研究テーマとの関係を考えておく。
14	調査・研究データの解析	実験・調査・アンケート等の解析<準備学習>ゼミの中で情報交換を進め、自分の研究にも活用できる情報があれば、改めて情報収集しておく。
15	ゼミ全体としての情報共有	調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告(グループワーク、発表学修)<準備学習>収集した情報や解析結果を簡潔に整理し、情報共有に備える。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミⅡ				
担当者氏名	石部 忠之				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 教養 ◎ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

指導教員の指導の下、研究テーマに沿って個人、グループの研究を進め、論文の完成に向けた追加資料の収集・分析、グループ内の討議を深める。個人論文とグループ概要を完成させ、ポスター資料を作成して、ポスターセッションによって研究成果を発表し合う。優秀なグループは、プレゼンテーションを行い、学科内で研究成果を共有する。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

- ①教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ②研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ③問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究概要集」
本学の「研究紀要」ほか、指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	研究計画の再確認	個人論文、グループ概要、ポスター作成までの日程、手順等の確認<準備学習>前期までに収集、分析した情報を振り返り整理しておく。
2	個人論文の作成(1)	個人論文の構成検討<準備学習>個人論文の書式や項目を確認しておく。
3	個人論文の作成(2)	個人論文 「はじめに」「方法」の下書き<準備学習>自分の研究とSDGsとの関係について見直し、「はじめに」の下書きに備える。
4	個人論文の作成(3)	個人論文 「結果」「考察」「おわりに」の下書き<準備学習>「結果」「考察」「おわりに」に書くべき内容を整理し準備しておく。
5	グループ概要の作成(1)	グループ概要 執筆分担確認 「考察」の内容の検討(グループワーク)<準備学習>個人論文を完成させ、個人論文の内容についてグループ内で情報を共有しておく。
6	グループ概要の作成(2)	グループ概要 執筆分担に沿った下書き(グループワーク)<準備学習>自分の分担について、グループ員の個人論文の内容を確認しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。(ゼミⅡ・ゼミⅠ合同)<準備学習>昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備①	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備①<準備学習>取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備②	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備②<準備学習>どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭当日の取組<準備学習>五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ概要の作成(3)	グループ概要 「結果」の調整と全体のまとめ(グループワーク)<準備学習>五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	概要作成	概要内容の検討および作成、電子データとりまとめ(グループワーク)<準備学習>図書館でグループ概要を複数編読んでイメージを作っておく。
13	ポスターの作成	ポスターセッションの発表方法確認、グループ概要内容の集約とポスター内容の検討(グループワーク)<準備学習>パワーポイントの操作方法を確認しておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。(ゼミⅡ・ゼミⅠ合同)<準備学習>発表のための資料をA4サイズ用の紙1枚にまとめておく。
15	卒業研究発表会	グループごとに卒業研究発表会の練習、ゼミ全体のリハーサルを通して、研究成果のよりよい発表を目指す<準備学習>ポスターを完成させておく。

《専門科目》

科目名	保育実習Ⅱ				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

「保育実習Ⅰ（保育所）」での学びを基礎とした保育所での実践を通し、以下のことについて学ぶ。

- ①保育士としての資質・能力・技術を修得
- ②実習経験の集大成としての責任実習の実施
- ③家庭と地域の実態と子ども家庭福祉ニーズの理解
- ④子育て支援のために必要とされる理解力・判断力の育成

《授業の到達目標》

保育所での子どもの実態に即した保育内容を理解し、援助方法を身につける。

保育所での子どもの実態と保育目標に応じた保育を展開するために指導計画の作成と実践について具体的に学ぶ。

《成績評価の方法》

実習先の評価50%、実習日誌40%、その他提出物等10%で総合的に評価し、60点以上を合格させる。

《テキスト》

- 実習の手引き（国際学院埼玉短期大学）
- 小櫃智子他「改訂版 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社，2023

《参考図書》

- 小櫃智子他「改訂版 幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド」わかば社，2023
- 汐見稔幸監修「保育所保育指針ハンドブック2017告示版」学研

《授業時間外学習》

絵本・紙芝居・素話・ピアノなど、保育実習にかかわる技能に関する反復練習を自己学習の中で行う。
また、教材研究と指導案の作成を行う。

《課題に対するフィードバック等》

専門科目の単位修得状況、「保育実習指導Ⅱ」の評価により、実習への参加の是非を決定する。実習園からの評価は実習後の授業内において個別に対面でフィードバックを行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	保育所実習	保育所で10日間90時間以上の実習を行う。
2		保育士の補助的な仕事を行いながら、主に、以下の点について実践的に学ぶ。
3		①一人ひとりの子どもと関わり丁寧に関わりながら全体を見渡すことを学ぶ
4		②指導計画の立案と子どもに対する援助方法の実際
5		③保育士としての服務
6		④保育所の機能と役割
7		⑤部分実習・責任実習の指導案を立てて行なう
8		⑥実習全体を通して、適切に記録をしたり、考察を深めたりすることができる
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	保育実習Ⅲ				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育士の職域は広がっており、児童福祉施設や障害者支援施設等における専門職としての活躍が求められる。本実習では保育実習Ⅰでの学びを更に深めるため、施設実習を通して、対人援助技術の基礎を身に付けること、利用児者の個別支援計画を理解した上で実際の支援を行うこと、他職種・地域連携という視点から利用児者を様々な角度で支援することを学ぶ。

《授業の到達目標》

①施設の役割と機能について具体的に説明することができる。
 ②個別支援計画から利用児者の個人差やニーズを把握し、個々に応じた支援を実践できる。③家庭支援や他職種との連携について具体的方法を論じることができる。④保育士としての自己課題を明確にし、対人援助職としての専門性を高める計画を立案することができる。

《成績評価の方法》

実習施設による評価50%、実習後の提出物の状況・実習への参加状況・実習日誌の記述内容（上記到達科目を観点とする）50%とする。
 総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	施設実習	児童福祉施設等における実習の実施
2	施設の役割と機能：一日の流れとプログラム理解	施設での生活、一日の流れ（生活の流れやプログラム・活動の流れ）について実践を通して理解する
3	施設の役割・機能の理解	実習での具体的な取り組みを通して、実習施設の役割は何か、どのような機能を有しているのかについて理解する
4	利用児・者一人一人に応じた関わり	実習施設の利用児・者との関わりと支援を通して、それぞれの施設の役割・機能、個々の対象に対する支援方法や技術を高める
5	計画に基づく活動や援助・支援	実習施設の理念・目的、個々の支援計画に基づく活動や援助・支援がどのように実践されているのかを理解し、自らもその活動・支援を実行し改善を図る
6	利用児・者の心身の状態に応じた対応	国際生活機能分類（ICF）の考え方に基づいた利用児・者の理解を不断に試み、障害に対する合理的配慮および発達の側面からの支援についての専門性を高める
7	利用児・者の活動と生活の環境	実習施設の利用児・者の活動・生活環境はどのような目的で構成・構築されているか、実践を通して理解し、自らも環境構成に努める
8	健康管理・安全対策の理解	実習施設において、利用児・者及び職員の健康管理や安全対策はどのように実行されているか、職員との関わりや聞き取り等によって理解・実践し、専門性を高める
9	支援計画の理解と活用	個人情報の取り扱いについて十分配慮されたうえで、利用児・者の状態と（個別）支援計画について理解し、どのように支援計画が活用されているか考察を深める
10	記録に基づく省察・自己評価	実習日誌へ日々記録していく中で、自らの関わりや考えを言語化し整理することを通して、実習施設及び利用児・者への理解を深め、日々の支援方法の改善に努める
11	保育士・生活支援員の業務内容の理解	実習施設における保育士及び生活支援員等はどうような役割・業務内容を担っているか、実践を通して理解し、対人援助職としての保育士について考察を深める
12	職員間の役割分担と連携についての理解	様々な専門職がどのような役割を担い、利用児・者のためにどのような連携が行われているかを可能な限り観察・共に実践し、連携についての理解を深める
13	利用児・者の家庭への支援についての理解	可能な限り、利用児・者の家庭の実態に触れ、児童家庭福祉、社会的擁護、障害児・者支援に対する理解を基に、家庭支援の知識・技術・判断力を養うよう努める
14	地域社会との連携についての理解	実習施設の地域活動や地域サービスに参加して、施設の地域における役割や機能、地域のニーズについて理解を深める
15	施設実習の振り返りと自己課題の明確化	実習施設での観察・実践、実習日誌への記録による振り返りを通して、保育士としての役割と職業倫理、自らの今後の新たな課題について明確にする

《テキスト》

- 守巧他 施設実習パーフェクトガイド～全施設掲載～ 改訂版 わかば社、2023
- 「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

- 全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会、2018
- 河合 高鋭・石山 直樹 編 保育をめざす人のための施設実習ガイド みらい 2022

《授業時間外学習》

「保育実習指導Ⅲ」履修が必須となります。
 実習までに、これまでの学修を振り返るようにしてください。実習終了後は振り返りシートや自己評価票作成を行い、各自が実習を振り返り、自己の課題を明確にしてください。

《課題に対するフィードバック等》

実習先による中間評価や最終評価や、訪問担当教員による実習中におけるフィードバックとして、日誌にコメントをつけたり、個別面接で助言する。

《専門科目》

科目名	教育実習Ⅱ				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

幼稚園等において15日間の教育実習を行う。原則として全日責任実習を経験することで、幼稚園等における一日の学級運営の実際を理解するとともに、幼児の成長を支え、適当な環境を与えることのできる専門職として必要な理論と実践について学習する。また、実習園が行っている家庭・社会との連携や子育て支援等を知る。社会人としてのマナーを身につけ、本学の「育てたい保育者像」の具現化を目指す。

《授業の到達目標》

○様々な場面で幼児理解に基づいて適切に幼児にかかわることができる。○実習園の教育課程等を踏まえ、子どもの実態に即した指導計画を立案し、実践することができる。○実習園で保育者及び幼児から得た学びを言葉化・文章化できる。○幼稚園の社会的役割について説明できる。○各自のテーマや当該実習のねらいに即した振り返りができる。

《成績評価の方法》

実習日誌40% 実習先評価40% 提出物20%で教育実習を総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

○幼稚園教育要領および同解説 ○小櫃智子他編著「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社 2015 ○実習の手引き（国際学院埼玉短期大学幼児保育学科）

《参考図書》

○「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」および同解説
 ○大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規 2020
 ○植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006
 ○無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研 2017
 ○保育用語辞典

《授業時間外学習》

[実習前] ○実習生として求められる最低限の社会的良識を備える。○部分実習・責任実習に向けて教材研究、指導案の作成等を行う。○実習園にてオリエンテーションを実施し、その記録をまとめておく。[実習中] ○当日の実習日誌を記録し、次の日の課題を把握する。○その他、教育実習指導Ⅱの講義内容を再確認し、事前・事後学習を十分に行うこと。

《課題に対するフィードバック等》

提出物は内容を確認し、講評などでフィードバックするほか、返却時にコメントをする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	全日責任実習に向けての準備①（5日間）	保育に参加し①保育の流れを理解する②幼児に親しみ、行動の意図を理解し、教師の援助の仕方を学ぶ③保育の一部を担当する。[事前・事後学習] 実習日誌の作成
2	全日責任実習に向けての準備②（5日間）	保育に参加し①幼児の発達、個人差について理解し対応を学ぶ②保育の一部担当に向け幼児の実情に応じた指導案を立案し実践する。[事前・事後学習] 実習日誌の作成
3	全日責任実習の実施（5日間）	①全日指導案立案と実践から教師の役割や職務の理解を深める②家庭・地域との連携や子育て支援を学び幼稚園の社会的役割を考える。[事前・事後学習] 実習日誌の作成
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	子ども家庭福祉				
担当者氏名	佐野 裕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

少子化の進行や虐待、貧困など子どもを取り巻く問題は深刻化している。この講義では、子どもと家庭のウェルビーイングをめざす保育とその根底にある子どもの人権について学ぶ。また、グループワークやディスカッション、パワーポイントを使用した発表により子どもと家庭の福祉に関する実践的知識や実践的技能を習得する。

《テキスト》

新保幸雄・小林 理編集：『新基本保育シリーズ3 子ども家庭福祉』，中央法規，2023年。

《参考図書》

・厚生労働省：『保育所保育指針解説』フレーベル館，2018年
 ・小野崎佳代・石田美幸『保護者支援・子育て支援』ミネルヴァ書房，2020年

《授業の到達目標》

- ①子どもの人権と子ども家庭福祉の理念について説明できる
- ②子ども家庭福祉の法制度と社会的資源について説明できる
- ③子ども家庭福祉の現代的課題を理解し、支援・援助を行う際に必要な実践的知識、実践的技能を習得することができる

《授業時間外学習》

①予習では教科書の該当するページを熟読し、疑問点をまとめておく。復習では授業のまとめや課題作成、また、疑問点を調べておき、次の授業時に担当教員に質問をする。これらを含め、本授業は15時間の授業時間外学習が必要です。

《成績評価の方法》

授業における提出課題・発表（30%）定期試験（70%）
 総合して60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートなどの課題はコメントを記載し、翌週の授業内で返却する。また、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	子どもの人権と児童の最善の利益	子ども家庭福祉を学ぶ意義、人権とは何か、子どもの人権 予習：テキスト3講を熟読(2時間) 復習：子どもの人権についてまとめる(2時間)
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷	日本と海外の子ども家庭福祉の歴史と子どもの人権 予習：テキスト2講を熟読(2時間) 復習：日本と海外の歴史を比較する(2時間)
3	子ども家庭福祉の制度と実施体制	子ども家庭福祉の法制度、実施体制、社会的資源 予習：テキスト4講を熟読(2時間) 復習：社会的資源のまとめ(2時間)
4	少子化と子育て不安	少子化、子育て不安とは何か、子育て支援の在り方 予習：少子化について調べる(2時間) 復習：少子化と子育て支援のまとめ(2時間)
5	子ども虐待・DVとその予防	子ども虐待・DVとは何か、子ども虐待とDVの実情、グループワーク 予習：テキスト9講を熟読(2時間) 復習：子ども虐待の政策のまとめ(2時間)
6	貧困・多国籍家庭への対応	子どもの貧困の現状と国の政策・制度、多国籍家庭への対応、グループ討議 予習：テキスト10講を熟読(2時間) 復習：貧困・多国籍家庭のまとめ(2時間)
7	少年非行等への対応	少年非行の定義と法律、社会的養護の現状と課題、グループワーク 予習：テキスト13講を熟読(2時間) 復習：社会的養護の課題のまとめ(2時間)
8	子どもの人権と現代的課題・討議	現代的課題(子育て不安・虐待・貧困・少年非行・子育て支援)、討議 予習：発表の準備確認(2時間) 復習：発表テーマに関する資料収集(2時間)
9	子どもの人権と現代的課題・発表(1)前グループ	現代的課題と保育者の役割について、学習成果を各グループ発表 予習：発表原稿の準備確認(2時間) 復習：発表資料・パワーポイント作成(2時間)
10	子どもの人権と現代的課題・発表(2)後グループ	現代的課題と保育者の役割について、学習成果を各グループ発表 予習：発表原稿の準備確認(2時間) 復習：振り返りレポートの作成(2時間)
11	障がいのある子どもへの対応	障がいのある子どもと家庭を支えるしくみ、障がい児支援の背景 予習：テキスト12講を熟読(2時間) 復習：保育士の役割まとめ(2時間)
12	少子高齢化と地域子育て支援	少子高齢化の実態、子ども子育て支援制度と地域子育て支援、グループワーク 予習：テキスト6講を熟読(2時間) 復習：地域子育て支援まとめ(2時間)
13	母子保健と子どもの健全育成	母子保健と子どもの健全育成の意義、保育サービスの動向 グループ討議 予習：テキスト7講を熟読(2時間) 復習：母子保健のまとめ(2時間)
14	多様な保育ニーズへの対応	多様な保育ニーズに対応する仕組み、支援者としての役割 グループ討議 予習：テキスト8講を熟読(2時間) 復習：多様な保育ニーズ、支援者のまとめ(2時間)
15	地域の連携と子育て支援ネットワーク	支援ネットワークの必要性、保育士の役割・討議、発表 予習：テキスト15講を熟読(2時間) 復習：支援ネットワークのまとめ(2時間)

《専門科目》

科目名	社会的養護 I				
担当者氏名	田中 久子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

何らかの事情で家庭環境を奪われた子ども、あるいは家庭環境にとどまることが望ましくない子どもが存在する。こうした子どもを国が責任を持って保護し援助する体制が社会的養護である。この授業では、時代とともに変化する子どもを取り巻く社会的課題や制度、専門職とは何か、援助技術についての知識を修得する。そして、子どもの権利、保育士の倫理や責務をグループ討議を行うことで深めていく。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的養護の意義と歴史の変遷を述べることができる。
- (2) 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について説明することができる。
- (3) 社会的養護の制度や実施体系等について説明できる。
- (4) 社会的養護の対象や形態、関連する専門職等について述べることができる。
- (5) 社会的養護の現状と課題について説明できる。

《成績評価の方法》

リアクションペーパー及びワークシート評価 (30%)、
定期試験 (70%)
総合して60点以上を合格とする。

《テキスト》

新基本保育シリーズ 6
相澤仁他編集「社会的養護 I」第 2 版 中央法規

《参考図書》

- (1) 小口尚子・福岡鮎美著「子どもによる子どものための子どもの権利条約」(小学館)
- (2) 福祉教育カレッジ「イラストでみる社会福祉用語事典(第2版)」テコム2017

《授業時間外学習》

- (1) 事前にテキストである本(教科書)の予習をし、専門用語や制度について学習しておくこと。
- (2) 社会福祉に関わるニュースや身近な事象を常に意識し、毎回のテーマについての疑問点、課題を整理しておく。毎回の授業について、予習、復習(概ね4時間)の自己学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業後に提出するリアクションペーパーに評価、質問への回答を記入する形でフィードバックする。加えて、疑問点、質問は授業内及び授業後にも受け付ける。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	社会的養護の理念と概念	社会的養護の基礎概念、理念や原理の理解 予習：教科書p2-12 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
2	社会的養護の歴史の変遷	欧米及び日本の社会的養護の歴史、子ども観の変遷を理解する 予習：教科書p14-24 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
3	子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの人権擁護のとらえ方、擁護、虐待の予防や対応の在り方への理解 予習：教科書p26-36復習 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
4	社会的養護の基本原則	家庭養護優先原則の根拠となる法律や条約、施策や動向を理解する 予習：教科書p38-48 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務	対人支援を行う支援者に求められる高い倫理観を理解する 予習：教科書p50-60 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
6	社会的養護の制度と法体系	「措置制度」とその背景原理、児童福祉法の概要、関連法規の理解 予習：教科書p62-72 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
7	社会的養護のしくみと実施体系	児相から施設、里親家庭に至るまでの過程を学び施設の概要課題を理解する 予習：教科書p74-84復習 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	ソーシャルワークの基本的視点や考え方を確認し、その展開を理解する 予習：教科書p86-96 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
9	社会的養護の対象と支援のあり方	予防的支援、在宅措置、代替養育を学び、対象者のニーズを理解する 予習：教科書p98-108 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
10	家庭養護と施設養護	家庭養護(里親やファミリーホーム)と施設養護の現状と課題を理解する 予習：教科書p110-120 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
11	社会的養護にかかわる専門職	専門性や資格の種類、保育士とかかわる専門職、その他の職種を理解する 予習：教科書p122-132 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
12	社会的養護に関する社会的状況	社会的養護体制の現状とその在り方、また存在意義について理解する 予習：教科書p134-144 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
13	施設等の運営管理の現状と課題	施設運営の内容と費用の仕組み、あり方について理解する 予習：教科書p146-156 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	施設入所児童等の虐待防止の経緯及び発生原因と課題の理解 予習：教科書p158-168 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)
15	社会的養護と地域福祉の現状と課題	児童福祉施設の地域への貢献の必要性や今後の課題についての理解 予習：教科書p170-180 (2時間) 復習：教科書該当箇所 ワークシート (2時間)

《専門科目》

科目名	子ども理解				
担当者氏名	小笠原 忍				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

子どもの生活や遊びの実態をディスカッション等を通じて理解を深め、それに即して子どもの発達や学びとその過程で生じるつまづきおよびその要因を把握するための原理や方法について演習を通じて学ぶ。なお、この授業ではあらかじめテーマを与え、それについて予習した内容をグループで共有する協同学習を行う。そのため、予習を必須とするとともに予習忘れや欠席は他の学生に迷惑となるため厳禁である。

《授業の到達目標》

- ①子どもの発達および行動のアセスメントを実施できる。
- ②子どものつまづきの内容とその背景を説明できる。
- ③子どもの理解を深めるための基礎的な態度について説明できる。
- ④発達の連続性を理解し、就学への支援のあり方を考えることができる。
- ⑤子どもの発達に応じた支援を説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験の得点を40%、授業内のワークの内容を40%、リアクションペーパーの記載内容20%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じてプリントを使用する。

《参考図書》

佐藤公治 2019 発達と育ちの心理学 萌文書林
 請川滋大 2020 子ども理解一個と集団の育ちを支える理論と方法 萌文書林
 次良丸睦子 他(編著) 2021 現代の子どもをめぐる発達心理学と臨床 福村出版

《授業時間外学習》

予習として与えられたテーマについて教科書やその他資料を読むなどして調べる(30分)。授業後は予習ノートと授業内容を確認し、ノートを整理する(30分)。本授業は時間外学習として合計15時間の予習・復習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

リアクションペーパーの記載内容については次週の授業で振り返りをおこなう。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達を概観する ① 乳児期	主として乳児期の子どもの発達と学習の過程に関する理解を深める。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
2	子どもの発達を概観する ② 幼児期	主として幼児期の子どもの発達と学習の過程に関する理解を深める。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
3	子どもの発達を概観する ③ 児童期と青年期	児童期と青年期の子どもの発達と学習の過程に関する理解を深める。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
4	特別な支援を必要とする 子どもの理解① 基礎	主要な発達障害の症状と対応方法について理解する。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
5	特別な支援を必要とする 子どもの理解② 応用	主要な発達障害の症状と対応方法について理解する。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
6	子どもの精神疾患① 基礎	乳幼児期～児童期によく見られる精神疾患について理解する。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
7	子どもの精神疾患② 応用	乳幼児期～児童期によく見られる精神疾患について理解する。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
8	アセスメント① 子ども理解	子どもを理解しアセスメントする方法と目的について学ぶ。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
9	アセスメント② 検査	検査によるアセスメントの方法について理解する。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
10	アセスメント③ 観察	観察の方法と、それぞれの長所・短所を理解する。 <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
11	発達支援法①コミュニケーションスキルへの支援	子どものコミュニケーションに関する支援について理解する。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
12	発達支援法② 日常生活スキルへの支援	子どもの日常生活に関する支援について理解する。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
13	発達支援法③ 社会的スキルへの支援	子どもの社会性に関する支援について理解する。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
14	発達支援法④ 行動問題への支援	子どもの行動問題に関する支援について理解する。(グループでの協同学習) <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
15	子どものアセスメントと支援	子どものアセスメントと発達支援法について総合的に理解する。 <授業外>配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。

《専門科目》

科目名	保育の計画と評価				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

この授業では、保育における計画と評価の意義および指導計画の作成方法等について学ぶ。また、保育課程の全体構造を把握し、保育の望ましいあり方について考察する。

本授業では、グループディスカッションや指導計画の作成・検討を行う。

《授業の到達目標》

- ①保育における計画と評価の意義について理解し、説明することができる。
- ②全体的な計画と指導計画の作成方法を理解し、実際に作成することができる。
- ③保育課程の全体構造を把握し、自身の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》

授業への積極的な取り組み・課題等の提出物 30%
 指導案の作成と検討・改善 30%
 期末試験 40%
 総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

前田和代編（2024）『新・保育の計画と評価—理論と実践をつなぐ保育カリキュラム論—』教育情報出版

《参考図書》

北野幸子編（2021）『新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育の計画と評価』北大路書房
 柴田長生・大森弘子編（2022）『子どもの育ちを支える 保育の計画と評価』北大路書房
 そのほか、授業内で紹介する。

《授業時間外学習》

事前学習として、事前に指示した教科書の該当箇所を読んでおくこと。
 本授業では60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

指導案および授業中に指示する課題については、授業内で返却し、解説を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	保育の計画と評価の意義	なぜ保育に計画と評価が必要なのか 事前学習：教科書第1章第1～2節を読んでおく。
2	カリキュラムの基礎理論	カリキュラムとは何か 事前学習：教科書第1章第3～5節を読んでおく
3	保育カリキュラムの構造	指導計画の種類と位置付け 事前学習：教科書第2章第1節を読んでおく
4	全体的な計画の基礎	保育における全体的な計画について 事前学習：教科書第2章第2～4節を読んでおく
5	指導計画の基礎	保育における指導計画について 事前学習：教科書第2章第5節を読んでおく
6	子ども理解に基づく保育計画	子ども理解に基づく保育計画の考え方について 事前学習：教科書第3章第1～2節を読んでおく
7	教材研究に基づく保育計画	教材研究の意義と方法について 事前学習：教科書第3章第3節を読んでおく
8	様々な指導計画	縦割り保育、個別の支援計画、食育計画、健康・安全計画について 事前学習：教科書第4章第4～5節を読んでおく
9	指導案の作成① 保育の構想を練る	指導案の作成 事前学習：これまでの内容を振り返り、まとめておく
10	指導案の作成② 活動の計画を立てる	指導案の作成（続き） 事前学習：保育所等における指導計画の事例を調べておく
11	保育における記録	保育における記録の意義と方法について 事前学習：教科書第5章第2節を読んでおく
12	保育における評価と改善	保育評価の基礎理論と改善について 事前学習：教科書第5章第1節を読んでおく
13	指導案の検討・改善	授業内で作成した指導案の検討・改善 事前学習：以前作成した指導案を振り返り、改善点をまとめておく
14	幼保小のつながり	接続期のカリキュラムについて 事前学習：教科書第5章第3節を読んでおく
15	全体のまとめと振り返り	振全体のまとめと振り返り 事前学習：これまでの授業内容を振り返り、まとめておく

《専門科目》

科目名	音楽表現領域指導法				
担当者氏名	越智 光輝				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

子どもの発達を意識した音楽活動について、フィールドワーク、グループワーク、個人およびグループによる発表を通じて学ぶ。学んだ音楽活動にもとづいて、模擬保育を実践する。

《テキスト》

渡邊雄介（監修）芳野道子・越智光輝（編著） 他
 保育内容「音楽表現」 声から音楽へ 響きあう心と身体
 福村出版株式会社

《参考図書》

必要に応じてプリントを配布する。

《授業の到達目標》

子どもの自由な音楽表現を受容できる保育者となるために、子どもの発達に応じた表現の領域におけるねらい等について説明できる。

楽器や身近な素材を用いて自由な音楽表現が実践できる。
 音楽表現活動における子どもの発達に応じた導入方法を実践できる。

《授業時間外学習》

提示された課題への取り組み
 発表に向けた自己学習
 模擬授業に必要な備品の準備
 （本授業では15時間の時間外学習が必要です。）

《成績評価の方法》

個人発表(10%)、グループ発表(50%)、課題提出(40%)で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

提出された課題、個人やグループによる発表に対して、授業内でフィードバックをバーバルコミュニケーションにて行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	音を聴くことによる受容と表出	表現の領域における「ねらい」「内容」「内容の取扱い」に関するグループワーク 〔時間外学習〕 日常生活で耳にする音についての調査（復習1時間）
2	いろいろな「音」の収集	身近で耳にする様々な音の収集と発表用資料の作成 〔時間外学習〕 収集したデータの選別、発表にむけての準備（予習・復習1時間）
3	収集した「音」についての発表	収集した「音」について、作成した資料を用いた発表 〔時間外学習〕 発表にむけての準備（予習・復習1時間）
4	諸外国の音楽教育	エミール・ジャック＝ダルクローズ、コダーイ・ゾルターン音楽教育について 〔時間外学習〕 リトミックについて調べておく（予習・復習1時間）
5	保育者としての歌唱	呼吸器官、発声器官、共鳴器官について学び、発声練習を実践 〔時間外学習〕 呼吸器官を意識した呼吸法の実践（予習・復習1時間）
6	楽器との出会い	子どもがふれる楽器と楽器の特長に関するグループワーク 〔時間外学習〕 学んだ分類方法を用いた楽器の分類（予習・復習1時間）
7	楽譜からの情報による印象の変化	「音楽の3要素」（メロディー、リズム、ハーモニー）が与える様々な印象 〔時間外学習〕 提出した課題への取り組み（予習・復習1時間）
8	楽器を用いた自由な表現	楽器を用いた独奏曲の楽譜を個人で作成 〔時間外学習〕 楽譜作成、発表にむけての準備（予習・復習1時間）
9	作曲した独奏曲の発表（前半）	出席番号前半の学生による作曲したオリジナルの独奏曲の発表 〔時間外学習〕 発表の振り返り、発表にむけての準備（予習・復習1時間）
10	作曲した独奏曲の発表（後半）	出席番号後半の学生による作曲したオリジナルの独奏曲の発表 〔時間外学習〕 発表の振り返り（予習・復習1時間）
11	素材をいかした音作り	オリジナルの合奏曲（紙を用いて音を出す）の楽譜をグループで作成 〔時間外学習〕 楽譜作成、発表にむけての準備（予習・復習1時間）
12	作成した合奏曲の発表	作曲したオリジナルの合奏曲をグループで発表 〔時間外学習〕 発表の振り返り（予習・復習1時間）
13	音楽活動の計画	模擬保育（音楽活動）の計画と指導案作成 〔時間外学習〕 指導案作成と模擬保育で使用する教材等の準備（予習・復習1時間）
14	音楽活動の実践	模擬保育の実践（前半発表）と講評〔時間外学習〕 模擬保育で使用する教材等の準備、実践した模擬保育の振り返り（予習・復習1時間）
15	音楽活動の実践に関するまとめ	模擬保育の実践（後半発表）と講評 〔時間外学習〕 実践した模擬保育の振り返り（復習1時間）

《専門科目》

科目名	人間関係領域指導法				
担当者氏名	岡澤 陽子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 教養 <input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

領域「人間関係」をどのように考えなければならないのか、友達との関係の場面で具体的にはどのようなことなのか、また、他の領域とどのように重なり合いながら指導計画を立てていくことを学ぶ。子どもの発達の状態を捉えながらも個々それぞれに異なることを事例などから理解し、「グループ協議」「発表」などのアクティブラーニングから伝え合い、吸収し保育力を養っていく。

《授業の到達目標》

(1) 領域「人間関係」における保育及び教育の目標、ねらいと内容について説明できる (2) 乳幼児期を踏まえた保育者に求められている人間関係について理解する (3) 遊びのなかで仲間との関わりと発達について保育者の役割を考える (4) 集団生活で人との関わりが難しい子どもへの支援についてその子への居場所づくりを考える

《成績評価の方法》

授業における提出課題・発表 (40%)、定期試験 (60%) で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

<領域> 『人間関係ワークブック』 著者 田村美由紀・室井佑美 萌文書林
 プリント配布

《参考図書》

『保育所保育指針』厚生労働省2008年・2017年告示
 『保育所保育指針解説書』厚生労働省2008年告示
 『幼稚園教育要領』文部科学省2008年・2017年告示
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省2008年告示
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2014年告示
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』2014年告示

《授業時間外学習》

各回において予習復習合わせて1時間の自主学習を行う。予習として、各回の「準備学習」に示したテキストなどの該当ページを事前に読み授業に臨むこと。復習として、ノート及びテキストを読み返しておく等、授業に関連した学習を自発的に行うこと。

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題は、次回の授業にてコメントなどを付してフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	教科書のフォトを見て設問を話し合う	教科書のフォト、戸外と屋内の子どもの遊びと保育者の様子について話し合う。「準備学習」教科書の扉にあるフォトを見ておく。
2	領域「人間関係」での保育・教育の目標	保育所保育、幼稚園教育の基本、幼保連携型認定こども園教育・保育の基本と目標「準備学習」教科書のp8～p22を事前に読んでおくこと。
3	領域「人間関係」におけるねらいと内容	認定こども園・幼稚園・保育所の領域「人間関係」のねらいと内容を理解する「準備学習」教科書のp24～p37を事前に読んでおくこと。
4	身近な人との関わりと発達	愛着形成、自我の芽生え、思いやイメージを言葉で表現することを考える「準備学習」教科書のp42～p47を事前に読んでおくこと。
5	保育者に求められている人間関係	乳幼児期、保育者同士、保育者と保護者の関わりについて考える「準備学習」教科書のp50～p58を事前に読んでおくこと。
6	仲間との関わりと発達	自己調整力の育ち、道徳性と規範意識の芽生えについて考える「準備学習」教科書のp60～p66を事前に読んでおくこと。
7	人との関わり I イメージの共有	遊びのなかでイメージを共有することや仲間入りをめぐる保育者の役割を考える「準備学習」教科書のp68～p72を事前に読んでおくこと。
8	人との関わり II 試行錯誤の過程	コミュニケーションと試行錯誤について考え、友達の思いとともに探求する「準備学習」教科書のp74～p78を事前に読んでおくこと。
9	遊びのなかでの自己主張・葛藤・育ち合い	自己主張・葛藤・育ち合いについて事例を通して考える「準備学習」教科書のp80～p85を事前に読んでおくこと。
10	遊びのなかでの協同的な遊び	協同的な遊びについて事例を通して考える「準備学習」教科書のp88～p92を事前に読んでおくこと。
11	人との関わりが難しい子どもへの支援	集団生活に困難をともなう子どもへの保育について考える「準備学習」教科書のp94～p99を事前に読んでおくこと。
12	保育の展開 I 指導計画 (0～2歳児)	0～2歳児の指導計画と実践について考える「準備学習」教科書のp102～p113を事前に読んでおくこと。
13	保育の展開 II (3歳児)	3歳児の指導計画と実践について考える「準備学習」教科書のp114～p119を事前に読んでおくこと。
14	保育の展開 III (4歳児)	4歳児の指導計画と実践について考える「準備学習」教科書のp120～p126を事前に読んでおくこと。
15	保育の展開 IV (5歳児)	5歳児の指導計画と実践について考える「準備学習」教科書のp128～p134を事前に読んでおくこと。

《専門科目》

科目名	特別支援保育Ⅱ				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

特別支援保育Ⅰでの学びをもとに、子どもの年齢ごとに運動・認知・社会性・基本的な生活習慣などの発達の道筋を確認しながら、発達の遅れや偏りのある子どもの理解と対応を学ぶ。ケーススタディとして、0才から6歳までの子どもと保護者の様子を取り上げ、家庭や関係機関との連携をふくめた支援のあり方について自身の考えをまとめる。ディスカッションを通して、主体的、協働的な学びを深める。

《授業の到達目標》

- ①子どもの発達の道筋に添って発達の遅れや偏りを理解し説明できる。
- ②事例から支援計画・保育計画を立案することができる。
- ③保育計画から保育展開を想定することができる。
- ④保護者への支援方法を論じることができる。
- ⑤他機関との連携について説明することができる。

《成績評価の方法》

授業の到達目標に基づき、課題等提出物20%、授業内の取り組み・発言等20%、定期試験60%で評価する。総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

●尾野明美ら著「アクティブラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育」萌文書林, 2023

《参考図書》

- 「幼稚園教育要領 平成29年告示」フレーベル館
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示」フレーベル館
- 「保育所保育指針 平成29年告示」フレーベル館
- 「特別支援学校幼稚園部教育要領・小学部学習指導要領 平成29年4月告示」海文堂出版

《授業時間外学習》

教科書を用いて、授業計画に沿って予習復習に取り組んでください。（授業時間外学習は15時間です）。インターネットや書籍などを用いて、自身の住んでいる地域にどのような社会資源があるかなどについて調べ、特別支援保育に関する自身の考察を深めていきましょう。

《課題に対するフィードバック等》

提出課題や授業での発言等へ、その都度コメントを付すことでフィードバックしていきます。提出された課題を全体に紹介して意見交換することで学びを深めることもあります。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	0歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	0歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p 2-9 復習：授業配布プリント
2	0歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	0歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育・配慮について学ぶ。 予習：教科書 p 10-31 復習：授業配布プリント
3	1歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	1歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p 32-40 復習：授業配布プリント
4	1歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	1歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育・配慮について学ぶ。 予習：教科書 p 41-77 復習：授業配布プリント
5	2歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	2歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p 78-85 復習：授業配布プリント
6	2歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	2歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育・配慮について学ぶ。 予習：教科書 p 86-119 復習：授業配布プリント
7	3歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	3歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p 120-126 復習：授業配布プリント
8	3歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	3歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書 p 127-147 復習：授業配布プリント
9	4歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	4歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p 148-154 復習：授業配布プリント
10	4歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	4歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書 p 155-177 復習：授業配布プリント
11	5歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	5歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p 178-183 復習：授業配布プリント
12	5歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	5歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書 p 184-210 復習：授業配布プリント
13	6歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	6歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書 p 211-214 復習：授業配布プリント
14	6歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	6歳児の事例について困難さと実態把握の方法、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書 p 215-234 復習：授業配布プリント
15	特別支援保育の課題と展望	特別支援教育に関する知識の理解度を確認する。 予習：これまでの授業の復習 復習：試験結果を振り返る

《専門科目》

科目名	保育のピアノ応用 I				
担当者氏名	平峯 章生、根岸 恭子、山田 真澄、渡邊 公実子、脇岡 龍耶				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

本授業では1年次に習得した演奏技術を、2年次に行われる実習あるいは採用試験を視野に入れて発展させていく。実習園、就職希望園から指定される課題曲等への対応も行い、保育の場での実践的な能力を身につける。人前で童謡の弾き歌いやピアノ曲演奏の発表を積極的に取り入れてゆく。

《授業の到達目標》

- ・童謡の弾き歌いは伴奏の難易度により取得点数が異なるが、その合計が合格基準の点数を満たすことができる。
- ・参考図書①から③のピアノ曲が1曲演奏できる。
- ・簡単な初見視奏ができる。
- ・指定された伴奏用和音の練習曲を弾くことができる。

《成績評価の方法》

ピアノ実技成果発表50%、童謡弾き歌い、もしくは童謡の初見伴奏45%、伴奏用和音の練習曲5%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

越智光輝「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ!」三恵社

《参考図書》

- (1) 進捗状況に応じて次の①～③より各自で用意する。
 - ①全訳バイエル 全音楽譜出版社
 - ②ブルクミュラー25練習曲 全音楽譜出版社
 - ③ソナチネアルバム I 巻 全音楽譜出版社
- (2) 実習、採用試験にあたって幼稚園、保育所、認定こども園等から指定された伴奏を有する楽曲

《授業時間外学習》

授業（個人レッスン）は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つかった課題を解決する場と捉え、教員から提示された課題を自己学習して次の授業に備える。（本授業では15時間の時間外学習が必要です。）

《課題に対するフィードバック等》

各課題については、毎授業、時間内に実技の個人指導を行い、適宜コメントする。ピアノ実技成果発表の実施後には、口頭で改善点を個別にフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	学習の進め方について	授業内容と方法の説明、受講グループ及びピアノ曲・童謡課題等の決定 [時間外学習]: 次回に向けての練習(1時間)
2	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:1週目に決定したピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、3週目に発表する童謡 3・4班:1週目に決定した童謡等の発表 [時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
3	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:2週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:1週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び4週目に発表する童謡[時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
4	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:2週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び5週目に発表する童謡3・4班:3週目に取り組んだ童謡等の発表 [時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
5	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:4週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:3週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び6週目に発表する童謡[時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
6	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:4週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び7週目に発表する童謡3・4班:5週目に取り組んだ童謡等の発表[時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
7	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:6週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:5週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び8週目に発表する童謡[時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
8	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:6週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び9週目に発表する童謡3・4班:7週目に取り組んだ童謡等の発表[時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
9	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:8週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:7週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び10週目に発表する童謡[時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
10	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:8週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び11週目に発表する童謡 3・4班:9週目に取り組んだ童謡等の発表[時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
11	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:10週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:9週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び12週目に発表する童謡[時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
12	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:10週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び13週目に発表する童謡 3・4班:11週目に取り組んだ童謡等の発表[時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
13	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:12週目に取り組んだ童謡等の発表 3・4班:11週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び15週目に発表する童謡 [時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
14	ピアノ実技成果発表	ピアノ曲の実技演奏（ノーカット、リピートなし）および指定された伴奏用和音の練習曲の演奏 [時間外学習]: 次回に向けた練習(1時間)
15	童謡伴奏の発表 実技成果発表の振り返り	童謡の弾き歌い発表と14週目に行ったピアノ実技演奏の振り返り 最終評価の確認 [時間外学習]: 発表に向けた練習(1時間)

《専門科目》

科目名	保育の造形Ⅱ				
担当者氏名	大野 琴絵				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

演習を通して保育者が幼児の造形活動を活発にするために必要な知識と技能を学ぶ授業である。
 Ⅱにおいては、特に立体造形(紙工作、粘土や身近な材料を使いながら「つくる」「造形遊び」)の指導を行うための、基礎技能を身につけることができる。

《授業の到達目標》

幼児の造形表現活動を活発にするため、造形表現の意義、目的や幼児の造形的発達段階の知識を習得するとともに、基礎的な造形技法や造形表現に関する指導法を身につける。

《成績評価の方法》

製作の取り組み30%、製作した作品30%、課題レポート40%を資料とし、学期末に総合的に評価する。合計60点以上を合格とする。

《テキスト》

自作テキストを配布する。

《参考図書》

文部科学省「幼児教育要領」フレーベル館
 厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館
 内閣府(文部科学省・厚生労働省)
 「幼児連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館
 学び合い高め合う「造形遊び」東洋館出版社
 小学校教科用図書「ずがこうさく1・2上下」開隆堂出版社

《授業時間外学習》

各時間ごとに掲載した「準備学習」の教科書を事前に読んでおき、材料を準備しておく。(本授業では15時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

授業内で適宜フィードバックを行い、最終提出したテキストにコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	幼児の造形活動と造形的発達	造形表現内容の構成・幼児の立体造形の発達段階的特徴を学ぶ。 〔準備学習〕発達段階的特徴を事前に調べておくこと。
2	新聞紙を使った造形遊び	新聞紙の特徴を知り、その特徴を活かし造形遊びを体験 〔準備学習〕新聞紙の特徴を事前に調べておくこと。
3	新聞紙を利用した粘土づくり	新聞を原料とした紙粘土の製作 〔準備学習〕新聞紙粘土の作り方を事前に調べておくこと。
4	絵具の種類と着色のしかた	様々な粘土の種類と特徴を知り、紙粘土に着色方法を体験 〔準備学習〕紙粘土の着色方法を事前に調べておくこと。
5	「紙コップ」を使った紙工作	素材の特徴を活かした幼児のおもちゃの製作 〔準備学習〕紙コップを使った造形活動の実践例を調べておくこと。
6	「紙皿」を使った紙工作	材料の特徴を活かしたおもちゃや掲示物の製作 〔準備学習〕紙皿を使った造形活動の実践例を調べておくこと。
7	「ペットボトル」を使った工作	ペットボトルを利用したおもちゃの製作 〔準備学習〕ペットボトルを使った造形活動の実践例を調べておくこと。
8	「封筒」を使った紙工作	封筒を使ったおもちゃの製作 〔準備学習〕封筒をどのように活用するか試しておくこと。
9	「色水」を使った造形遊び	色の三原色を使い、その特徴を活かした造形遊びを体験する。 〔準備学習〕色の三原色を事前に調べておくこと。
10	「紙」を使って①グリーンティングカード	グリーンティングカードの製作 〔準備学習〕グリーンティングカードの種類や特徴をまとめておくこと。
11	「紙」を使って②はがき	はがきの製作 〔準備学習〕暑中見舞いや年賀状等のはがきのデザインを考えておくこと。
12	「紙」を使って③カレンダー	カレンダーの製作 〔準備学習〕年中行事や季節ごとの特徴的なモチーフについてまとめておくこと。
13	多様な粘土を使って	様々な粘土の種類と特徴を知り、発達段階に合った造形遊びを体験(グループワーク) 〔準備学習〕テキスト P5～P10とP17を読んでおくこと。
14	対象年齢にあった絵本の選び方	対象年齢にあった絵本の選び方(予習1時間、復習1時間) 〔準備学習〕幼少期自分の好きだった絵本を読み返しておくこと。
15	保育の造形Ⅱ授業の振り返り	授業を振り返り、学びを深める(復習3時間) 〔準備学習〕テキストを完成させておくこと。

《専門科目》

科目名	食育論				
担当者氏名	大野 智子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

食についての基本を理解し、子どもの食育活動や保護者支援について学ぶ。また、日本における伝統行事や食卓作法を習得し、子どもたちが、興味関心を持って食育活動ができる力を養う。

この授業は、バズ学習（小グループでテーマについて話し合う）とPBL（問題解決型学習）を取り入れて授業を進める。「生産者から食卓まで」という広い視野の実践例も紹介する。

《授業の到達目標》

食育に関する知識を身につけ、保護者支援に繋げることができる。和食の基本や四季折々の食材や調理法を理解し子どもたちにわかりやすく説明することができる。また、地域別伝統料理を知り、食育活動に生かすことができる。各国の食事のマナーや作法を知り、グローバルな観点で食についての知識を習得し、子どもにわかりやすく伝えることができる。

《成績評価の方法》

評価は、
 授業後のレポート（30%）
 課題の発表等（30%）
 確認テスト（40%）
 総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

テーブルマナーの絵本 高野紀子作 あすなる書房

《参考図書》

- ① 禅が教えてくれる美しい人をつくる「所作」の基本 枘野俊明（株）幻冬舎
- ② 「和」の行事えほん 高野紀子作 あすなる書房
- ③ 産学協働による認定食育士制度の構築及び実践 テキスト「食育教養ラーニング」 国際学院埼玉短期大学

《授業時間外学習》

専用ノートを作成し、各回ごとのテーマに基づいた内容を、見やすく、分かりやすくまとめる。
 本授業では、60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

講義内容がより理解できるよう、日頃から食に対して興味関心を持ち、授業に臨んでください。毎授業回の最後に質問の時間を設け、回答する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	和食のマナー	毎日使っているお箸にも使い方のルールがあります。正しい使い方を習得する。〔準備学習〕P6～15までを事前に読んでおくこと
2	食育絵本の発表	食にかかわる絵本の読み聞かせを行う。〔準備学習〕食にかかわる絵本を2冊（乳児向けと幼児向け）選び、読み聞かせの練習をしておくこと
3	尾頭付きの魚やてんぷらの食べ方・箸袋の折り方	頭や尾のついたままの魚を食べる機会も少なく、天つゆの付け方など和食全般の食べ方を習得し、食育活動に繋げることができる。〔準備学習〕P20～21を事前に読んでおく
4	和室（畳の部屋）での作法	畳の敷かれた部屋のない住まいも多くなってきたが、和室での決まりごとを理解し、子どもたちに適切に伝えることができる。〔準備学習〕P16～19までを事前に読んでおく
5	「いただきます」「ごちそうさま」	食事の前後のあいさつのみならず、食前の準備や食後の後片付けなどの必要性を、子どもたちに伝えることができる。〔準備学習〕P22～25、p36を事前に読んでおくこと
6	日本茶とお菓子 紅茶とお菓子	食後の後のお茶やお菓子のいただき方、招かれた先でのいただき方などを理解し、日常で生かすことができる。〔準備学習〕P26～29、P50～51までを事前に読んでおくこと
7	春を味わう 夏を味わう	春や夏を感じる食の楽しみ方や、食材を知り、食育活動に繋げることができる。〔準備学習〕P30～33を読んでおくこと
8	秋を味わう 冬を味わう	秋・冬を感じる食の楽しみ方や、食材を知り、食育活動に繋げることができる。〔準備学習〕P34～37を読んでおくこと
9	食育かるた1 読み札の作成	幼児向けの食育かるたを通して、子どもたちに食の大切さを伝えることができる。〔準備学習〕事前に食育かるたの「読み札」の内容を考えておく
10	食育かるた2 絵札の作成	前回作成した読み札に対し、子どもたちが興味・関心を持つような「絵札」を作成〔準備学習〕事前に前回の読み札に対する「絵札」のデザインを考えておく
11	洋食のマナー	カトラリーについて理解し、料理に合ったカトラリーを選ぶことができる。カトラリーを正しく使うことができる。〔準備学習〕P40～47を事前に読んでおくこと
12	洋食のタブー	ナイフやフォーク、スプーンではいけないことを知り、正しい使い方ができる。〔準備学習〕P48～49、p52事前に読んでおくこと
13	外食のマナー	家族そろって画装縮をする機会も増える中、気を付けなければならないことを理解し、子どもたちにわかりやすく伝えられる。〔準備学習〕P54～58を事前に読んでおくこと
14	春夏の行事	日本の伝統行事と季節（春・夏）の楽しみ方を、子どもたちにわかりやすく伝えることができる。〔準備学習〕日本の伝統行事（春・夏）について調べておくこと
15	秋冬の行事	日本の伝統行事と季節（秋・冬）の楽しみ方を、子どもたちにわかりやすく伝えることができる。〔準備学習〕日本の伝統行事（秋・冬）について調べておくこと

《専門科目》

科目名	子ども家庭支援論				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input checked="" type="radio"/> 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

この授業では、保育・教育施設および地域における家庭支援の基本的な考え方と方法について学ぶ。具体的には、家庭支援における保育の専門性、保育者の基本的な態度、地域や関係機関等との連携・協力、多様な家庭の現状と状況に応じた支援などについて、事例の検討を通して理解を深める。

本授業では、事例に基づくロールプレイやグループディスカッションを行う。

《授業の到達目標》

- ①子育て家庭に対する支援の意義や目的を理解し、説明することができる。
- ②保育の専門性を活かした家庭支援の意義や保育者の基本的な態度、関係機関等との連携・協力について理解し、説明することができる。
- ③多様な家庭のニーズに応じた支援について考察し、自身の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》

授業への積極的な取り組み・課題等の提出物 50%

期末試験 50%

総合評価60点以上で合格とする。

《テキスト》

プリントを配付する

《参考図書》

立花直樹・安田誠人監修 青井夕貴ほか編 (2022) 『子どもと保護者に寄り添う「子ども家庭支援論」』 晃洋書房
 松井剛太編 (2021) 『新・子育て支援 子どもの姿を喜びに変えるために』 教育情報出版
 渡邊暁・橋本翼編 (2024) 『実践で役立つ子ども家庭支援論』 ミネルヴァ書房

《授業時間外学習》

事前学習として、事前に配付した資料を読んでおくこと。

本授業では60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

課題については授業内で返却し、解説を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	子ども家庭支援とは	子ども家庭支援の意義と必要性 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
2	子育て支援の現状と課題	子育て家庭をめぐる現状と課題 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
3	子ども家庭支援の目的と機能	子ども家庭支援の目的と機能 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
4	子ども家庭支援に関わる法制度	子ども家庭支援に関わる法制度 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
5	子育て支援のための社会資源	子育て支援のための社会資源 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
6	保育所等における家庭支援	保育所等を利用する子どもの家庭への支援 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
7	保育の専門性を活かした家庭支援	保育の専門性を活かした子ども家庭支援 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
8	保育者に求められる基本的態度	保育者に求められる基本的態度 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
9	地域における子育て支援	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
10	子ども家庭支援の技術	事例を通して考える子ども家庭支援の技術 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
11	「育児不安」と子育ての「喜び」の共有	「育児不安」と子育ての「喜び」の共有について 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
12	関係機関との連携・協力	子育て支援における関係機関との連携・協力 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
13	様々なニーズに応じた支援①	要保護児童等およびその家庭に対する支援 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
14	様々なニーズに応じた支援②	ひとり親家庭・ステップファミリー・外国につながる家庭等への支援 事前学習：事前に配付した資料を読んでおく
15	全体のまとめと振り返り	全体のまとめと振り返り 事前学習：期末試験に向けて、これまでの授業内容を振り返っておく

《専門科目》

科目名	子ども家庭支援の心理学				
担当者氏名	小笠原 忍				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

子どもを理解する際に、最も身近な環境である家庭の存在を無視することはできない。この授業では、乳幼児期から老年期に至るライフステージに注目し、個人・家族それぞれの発達や発展を想像できるようにする。その上で、現代社会における家族・家庭の意義や機能、子どもの心身の健康と保健、精神疾患や障害について学び、保育者としての家庭支援を考える力を身につける。

《授業の到達目標》

子どもの発達や家庭環境を理解し、子どもや周囲の人々の発達と健康を支援する力を身につけることを目標とする。生涯発達、家族機能、心身の健康と保健などの知識を整理・統合し、議論できるようになることが望ましい。基礎知識の習得だけでなく、事例をもとに多様な家庭支援の在り方を述べられるように視点を養い、他職種との連携にも応用できるようにする。

《成績評価の方法》

定期試験(80%)+リアクションペーパー(20%)で評価をおこなう、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

「子ども家庭支援の心理学」 白川佳子・福丸由佳（編） 中央法規
必要に応じてプリントを使用する。

《参考図書》

・本郷一夫・神谷哲司（編著）「シードブック 子ども家庭支援の心理学」 建帛社 2019
 ・岡本祐子・深瀬裕子（編著）「シリーズ生涯発達心理学① エピソードでつかむ 生涯発達心理学」 ミネルヴァ書房 2013
 ・永房典之「新・子ども家庭支援の心理学」 教育情報出版 2023

《授業時間外学習》

毎回の授業で、予習と復習（概ね4時間）の自己学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

リアクションペーパーの記載内容については次週の授業で振り返りをおこなう。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	子どもを取り巻く家庭環境	授業の進め方の説明 生涯発達 時間外学習（4時間）：テキストの当該ページを精読し予習する。復習をする。
2	乳児期・幼児期の発達	乳児期・幼児期の発達の特徴 時間外学習（4時間）：テキストの当該ページを精読し予習する。復習をする。
3	学童期・青年期の発達	学童期・青年期の発達の特徴 時間外学習（4時間）：テキストの当該ページを精読し予習する。復習をする。
4	成人期・高齢期の発達	成人期・高齢期の発達の特徴 時間外学習（4時間）：テキストの当該ページを精読し予習する。復習をする。
5	家族・家庭の意義と機能	家族・家庭の意義と機能 時間外学習（4時間）：テキストの当該ページを精読し予習する。復習をする。
6	家族関係・親子関係の理解	家族関係・親子関係の理解 時間外学習（4時間）：テキストの当該ページを精読し予習する。復習をする。
7	子育ての経験と親としての育ち	子育ての経験と親としての育ち 時間外学習（4時間）：テキストの当該ページを精読し予習する。復習をする。
8	子育てを取り巻く社会状況／ライフコース	子育てを取り巻く社会的状況／ライフコースと仕事・子育て 時間外学習（4時間）：テキストの当該ページを精読し予習する。復習をする。
9	多様な家庭とその理解	多様な家庭とその理解 時間外学習（4時間）：テキストの当該ページを精読し予習する。復習をする。
10	特別な配慮を要する家庭	特別な配慮を要する家庭の理解 時間外学習（4時間）：テキストの当該ページを精読し予習する。復習をする。
11	子どものこころの健康	子どものこころの健康 時間外学習（4時間）：テキストの当該ページを精読し予習する。復習をする。
12	グループワーク（1）調査・問題提起	子ども家庭支援の心理学に関するテーマを決める 時間外学習（4時間）：プレゼンテーションに向けて準備を行う。
13	グループワーク（2）発表内容の資料作成	子ども家庭支援の心理学に関するテーマに沿って資料を作成する 時間外学習（4時間）：プレゼンテーションに向けて準備を行う。
14	グループワーク（3）：プレゼンテーション	子ども家庭支援の心理学に関するテーマに沿って発表する資料を作成する 時間外学習（4時間）：プレゼンテーションに向けて準備と振り返りを行う。
15	討議：子どもをとり巻く生活環境と支援	ディスカッション 時間外学習（4時間）：全15回の授業の振り返り。

《専門科目》

科目名	保育内容 総論				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

これまで領域別に学んできた「保育内容（5領域）」に関する基礎知識等を踏まえ、3法令における保育の全体的構造を把握する。また、具体的な事例の検討を通して保育内容を総合的に捉える見方を身につけるとともに、指導計画の作成、評価等を含む保育の構想の仕方について学ぶ。

本授業では、グループディスカッションや模擬保育を行う。

《授業の到達目標》

- ① 3法令における保育の全体的な構造を理解し、説明することができる。
- ② 保育を取り巻く社会的状況や保育内容の歴史的変遷等を踏まえた上で、保育の基本的な考え方を理解し、具体的な計画・実践・記録・評価と結びつけて説明することができる。
- ③ 保育内容の具体的な事例について考察し、自身の考えを述べることができる。

《成績評価の方法》

授業への積極的な取り組み・課題等の提出物 50%

期末試験 50%

総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

指定しない

《参考図書》

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館
 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

《授業時間外学習》

事前学習として事前に配付した資料を読み、課題に取り組むこと。

本授業では15時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

課題については授業内で返却し、解説を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	保育内容 総論で学ぶこと	授業概要の説明、保育内容の基本的な構造 事前学習：これまでの〈保育内容〉に関する学修内容を振り返っておく
2	保育内容の捉え方① 養護と教育の一体的展開	養護と教育の一体的展開 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
3	保育内容の捉え方② 個と集団のかかわり	子どもの主体性の尊重、個と集団の発達を踏まえた保育 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
4	保育内容の捉え方③ 生活や遊びを通した学び	生活や遊びによる総合的な指導 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
5	保育における環境構成	環境を通して行う保育 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
6	保育内容の歴史～ヨーロッパ編～	近代ヨーロッパにおける保育内容の歴史 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
7	「遊び」と教材研究	教材研究と保育における「遊び」 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
8	保育内容の歴史～日本・戦前編～	戦前日本の保育内容 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
9	保育内容の歴史～日本・戦後編～	戦後日本の保育内容 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
10	子どもの権利について考える①	子どもの権利条約の歴史 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
11	子どもの権利について考える②	子どもの権利条約に関する教材作成・発表 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
12	小学校とのつながり	幼保小の接続期カリキュラム 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
13	これからの保育内容①	現代社会における保育の意義と課題 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
14	これからの保育内容②	保育のオルタナティブ 事前学習：事前に配付した資料を読み、課題に取り組む
15	全体のまとめと振り返り	全体のまとめと振り返り 事前学習：期末試験に向けてこれまでの内容を振り返っておく

《専門科目》

科目名	子どもの健康と安全				
担当者氏名	佐藤 紀子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

乳幼児期の子どもの成長発達は著しい。しかし乳幼児期は抵抗力や免疫能力も未熟で未発達であり、感染症などの病気や怪我などで健康を阻害されやすい。災害や虐待への対応も含めて、保育士として、子どもの健康と生命の保持・安全を保障するために必要な知識・技術を講義・演習を通して修得する。授業で使用するテキストは、購入必須。

《テキスト》

これだけはおさえたい!保育者のための「子どもの健康と安全」 鈴木美枝子編著 創成社

《参考図書》

- 「保育のなかの保健」 全国保育園保健師看護師連絡会
- 「保育のなかの事故」 全国保育園保健師看護師連絡会

《授業の到達目標》

- ・保育者として必要な保健の基本的知識を学び、子どもの心身の健康の保持・増進を図れる実践力を身につける。
- ・子どもの生命を預かっている責任ある重要な仕事であることを自覚し、伝え話すことができる。
- ・子どもを取り巻く環境（保護者・地域の子育て支援・学校との連携・医療や療育との連携）への取り組みの重要性を自覚し説明できる。

《授業時間外学習》

- ・授業で示される課題学習
- ・復習（翌週の授業の際に、前週のポイントの確認を行う）
- ・本授業では15時間の時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

- ・グループごとの総合演習試験（20%）
 - ・毎回の授業内に作成したレポート提出（60%）
 - ・グループ学習での取り組み（協力・連携姿勢）（20%）
- ※授業態度加味する
・総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

講義のレポートを毎回提出（翌週まで）。次回以降アドバイス等を入れて、フィードバックを行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	望ましい成育環境と安全対策	日本の人口動態、推移 先人に学ぶ成育環境 保健的観点を踏まえた保育 健康及び安全の管理5つのガイドライン【準備学習】人口動態を調べる
2	子どもの健康と保健活動の意義	保育のなかの保健 ヘルスプロモーションの考え方 多様性の理解 保健計画立案（グループワーク）【準備学習】保健計画を立案するときの注意について調べる
3	発育の計測と評価 子どもの発達の評価	身体計測（グループワーク）、身体発育曲線にプロットし評価 発達スクリーニング記録用紙の見方、使用、確認【準備学習】自分の母子手帳の記載内容確認
4	子どもの健康観察	日常生活における健康観察のポイント 保護者・職員との健康情報の共 電話対応（グループワーク）【準備学習】体温測定、脈拍測定、呼吸確認の仕方を調べておく
5	子どもの体調不良① 症状への手当	子どもによく見られる症状への対応（発熱・咳・発疹 等）【準備学習】症状への手当 ホットタオル、クーリング、タッピング
6	子どもの体調不良② 症状の見方と対応	子どもによく見られる症状への対応（嘔吐・下痢・けいれん等）【準備学習】嘔吐処理の手順について調べておく
7	子どもの養護の仕方	子どもの養護の仕方、生活習慣への援助と教育、沐浴、シャワー浴（グループワーク）【準備学習】抱っこ・おんぶ・衣類の着脱・オムツ交換のポイント
8	感染症対策 衛生管理予防接種	感染症の基礎知識「保育所における感染症対策ガイドライン」【準備学習】感染成立の3要因と対策について調べておく 成人用予防接種手帳
9	子どもによくあるケガの 応急手当①(身近なケガ)	子どもの発達とケガについて 危険性と手当（グループワーク）すり傷・切り傷・刺し傷等【準備学習】ケガをした子どもへの声掛けについて
10	子どもによくあるケガの 応急手当②(特殊なケガ)	骨折・脱臼・熱傷・歯が抜けた・目の傷・耳や鼻に異物・鼻出血 等の手当【準備学習】救急箱の中身、持ち歩きの救急グッズに必要なもの（グループワーク）
11	保育の重大事故への対策 摂食のポイント	重大事故の起こりやすい活動とその対策（グループワーク）・発表【準備学習】事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインを読んでおく
12	子どもの一次救命処置	保育現場での気道異物除去、心肺蘇生とAEDの使用をシミュレーションで実施（グループワーク）【準備学習】乳幼児の心肺蘇生とAEDの使用方を調べておく
13	個別的な配慮が必要な子どもへの対応	アレルギー疾患や慢性疾患、障害のある子どもへの対応 エピペンの使い方（グループワーク）【準備学習】エピペンとはどんな時に使用するものか
14	危機管理：災害時の対応	災害を受けた子ども、アレルギー疾患がある子どもの災害への備え（グループワーク）【準備学習】自分の居住地、就労先のハザードマップを確認し、家族の避難計画を作成
15	子どもの保健演習の総合理解	保育場面「こんな時どうする？」に対し役割を分担・実演し、感想発表（グループワーク）【準備学習】保育士になるにあたり、不安なことを確認する

《専門科目》

科目名	社会的養護Ⅱ				
担当者氏名	田中 久子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-2 知識・技能 ○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

社会的養護の方向性が明確化され、2017年の「新しい社会的養育ビジョン」は、改正された児童福祉法の理念を具体化している。授業では、子どもが権利の主体であることを理解し、家庭養育優先の理念のもと、代替として社会的養育を推進していくことを学ぶ。前期授業の内容をより深めるため、子どもの権利、制度、政策の実際を討議、発表を通じて具体的に修得する

《授業の到達目標》

- (1) 社会的養護の基礎的内容について具体的に説明できる
- (2) 施設養護及び家庭養護の実際について説明できる。
- (3) 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際を述べることができる。
- (4) 相談援助の方法・技術について説明できる。
- (5) 子どもの虐待防止と家庭支援について述べるができる。

《成績評価の方法》

レポート3回の評価30%、グループワークの評価10%、ワークシート評価10%、定期試験50%とし総合的に評価する。60点以上を合格とする。

《テキスト》

新基本保育シリーズ18
 相沢仁他編集「社会的養護Ⅱ」中央法規

《参考図書》

- ①子どもによる子どものための「子どもの権利条約」小学館（小口尚子・福岡鮎美著）
- ②「ルポ虐待：大阪二児置き去り死事件」ちくま新書（杉山春著）
- ③今から学ぼう！ライフストーリーワーク（才村眞理著 福村出版）
- ④福祉教育カレッジ「イラストでみる社会福祉用語辞典」

《授業時間外学習》

(1) 社会的養護に関わるニュースや身近な事象を常に意識しておくこと。(2) 各授業に参加するにあたって、事前に提示された課題を学習しておくこと。(3) 授業に必要な書物は問題意識をもって読了し、疑問点や検討事項をまとめておくこと。毎回の授業について予習、復習（概ね1時間）の自己学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

レポートやワークシートに評価、感想を記載することでフィードバックを行います。加えて、質問や疑問点については授業内及び授業後に受け付けます。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	子どもの権利擁護	子どもの権利擁護の基本を学び養育者としての取り組み運営の理解 予習：教科書p2-12復習：日本Unicef協会のHP「子どもの権利条約」参照（1時間）
2	社会的養護における子どもの理解	子どもの理解を深めていくためのアプローチを学び子ども及び家庭環境を理解する 予習：教科書p14-24 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
3	社会的養護の内容① 日常生活支援	日常生活支援の実際を理解した上で事例分析を通じて支援の在り方の討議及び理解 予習：教科書p26-36 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
4	社会的養護の内容② 心理的支援	心理的支援の目的と特徴、視点、実際を学び、その後、演習や事例を通しての理解 予習：教科書p38-48 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
5	社会的養護の内容③ 自立支援	自立支援の基本及び事例分析を通じて自分の常識だけでない視点での対策を学ぶ 予習：教科書p50-60 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
6	施設養護の生活特性および実際①乳児院等	各施設の特性や施設における援助方法を調べ理解を深める 予習：教科書p62-72 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
7	施設養護の生活特性と実際②障害児施設等	児童心理施設、児童自立支援施設、障害児施設の特性や実際を演習形式で学ぶ 予習：教科書p74-84 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
8	家庭養護の生活特性および実際	家庭養護とは、保育に求められる役割を理解する。里親等の実際をDVDを視聴し学ぶ 予習：教科書p86-96 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
9	アセスメントと個別支援計画の作成	アセスメントや自立とは何かを理解した上で課題解決のグループワークを行う。 予習：教科書p98-108 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
10	記録および自己評価	記録の意義と役割、自己評価を学ぶ。演習を通して理解を深める 予習：教科書p110-120 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
11	保育の専門性にかかわる知識・技術・実践	保育士の位置づけを学び、演習形式で問題を抱えた子どもへの対応方法を学ぶ 予習：教科書p122-132 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
12	相談援助の知識・技術とその実践	ソーシャルワークの知識や技術を理解した上で演習を通して対応方法を学ぶ 予習：教科書p134-144 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
13	社会的養護におけるソーシャルワーク	「ソーシャルワーク」の意味、具体的に用いる知識・技術を演習を通して理解する 予習：教科書p146-156 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
14	社会的養護における家庭支援	社会的養護の持つ「代替養育」以上の機能を学び、演習形式で実際を理解する 予習：教科書p158-170 復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）
15	社会的養護の課題と展望	「社会的養護の課題と将来像」「新しい社会的養育ビジョン」を参考に今後を考察。予習：教科書p172-182復習：教科書該当箇所・ワークシート（1時間）

《専門科目》

科目名	保育・教育相談支援				
担当者氏名	小笠原 忍				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

保育・教育場面における相談の意義と目的について理解し、保育・教育相談における今日の課題についてディスカッション等を通じて理解し、保育・教育相談に関する基礎的知識と技法を演習によって身につけ、保育者として相談に臨む基礎的態度を養う。また、保育者として職務を継続するためのメンタルヘルス向上のスキルを養う。授業ではあらかじめ与えられたテーマについて予習した内容をグループで共有する協同学習を行う。

《授業の到達目標》

- ①保育・教育相談の意義と理論を説明できる。
- ②カウンセリングの基本的な知識について説明し、技法を用いて相談援助の実践ができる。
- ③保育・教育相談の具体的な進め方を説明できる。
- ④チーム援助の具体的な方法を説明できる。
- ⑤自らのメンタルヘルス向上のスキルをロールプレイで実演できる。

《成績評価の方法》

定期試験(80%)+リアクションペーパー(20%)で評価をおこなう、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要な資料等は適宜配布する。

《参考図書》

児童育成協会(監修) 2019 新基本保育シリーズ19 子育て支援
中央法規
小橋明子(監修) 2020 子育て支援 中山書店
黒田祐二 2014 実践につながる教育相談 北樹出版

《授業時間外学習》

予習として各回で指示されたテーマについて調べる(30分)。授業後はノートをまとめて理解を深める復習をすること(30分)。本授業は合計15時間の時間外学習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

リアクションペーパーの記載内容については次週の授業で振り返りをおこなう。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	保育における相談	保育場面における相談の意義と目的を理解する。＜授業外＞予習：「保育相談・教育相談の定義」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
2	多様な家族形態と子育て支援	現代の家族のあり方を学び、必要な子育て支援について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：子育て支援の形態について調べる(30分)。復習をする(30分)。
3	保育アセスメント	子育て支援で保育者が果たすべき役割を理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：「アセスメント」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
4	連携と協働	校内・園内での連携のあり方、外部専門機関との連携のあり方を理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：「チーム援助」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
5	カウンセリングの基本理論	主要なカウンセリングの理論について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：「来談者中心療法」「行動療法」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
6	援助者に求められる基本的態度	援助者に求められる基本的な態度について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：「カウンセラーの3条件」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
7	カウンセリング演習	3つの聴き方を実践し、応答技法について学ぶ。＜授業外＞予習：「傾聴」「応答技法」を調べる(30分)。復習をする(30分)。
8	虐待の理解と対応	虐待が子どもに及ぼす影響を理解し、被虐待児への対応を学ぶ。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：児童虐待の種類と内容について調べる(30分)。復習をする(30分)。
9	特別なニーズのある子どもと家庭への支援1	障害など特別な配慮が必要な子どもと家庭への支援のあり方を理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：インクルーシブ教育を調べる(30分)。復習をする(30分)。
10	特別なニーズのある子どもと家庭への支援2	障害など特別な配慮が必要な子どもと家庭への支援のあり方を理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞予習：幼児の発達支援を調べる(30分)。復習をする(30分)。
11	保育者のメンタルヘルス	ストレスとの付き合い方を学び、メンタルヘルス向上のための方策を身につける。＜授業外＞予習：「ストレスマネジメント」について調べる(30分)。復習をする(30分)。
12	保育実践事例検討1(グループワーク)	保育実践におけるコミュニケーション支援について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
13	保育実践事例検討2(グループワーク)	保育実践における日常生活支援について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
14	保育実践事例検討3(グループワーク)	保育実践における対人支援について理解する。(グループでの協同学習)＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習をする(30分)。
15	現場で求められる保育・教育相談とは	これまで学んだことを振り返り、子育て支援および保育・教育相談のあり方を考える。＜授業外＞これまでの授業ノートを振り返り整理する(30分)。復習をする(30分)。

《専門科目》

科目名	教育課程及び教育方法・技術論				
担当者氏名	石部 忠之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の指導技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識、技術を身に付ける。幼児教育の現場におけるカリキュラムマネジメントの意味を理解できる。また、全体的な計画の中の各種行事の意義を理解し、実際に行事計画を作成し、実演する。そのことにより、行事の持つ意味、保育者の役割をつかむ。

《授業の到達目標》

子供たちの興味・関心を高めたり、学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。幼稚園・保育所等で実際に行われている園行事の意義、目的を理解し、実施計画を立案し、保育者及び園児を想定した、出し物を実演することができる。幼稚園教育要領の性格及び位置づけ並びに教育課程編成の目的を説明できる。

《成績評価の方法》

電子紙芝居の提出(30%)、電子紙芝居の発表(30%)、クリスマス会のグループ発表(30%)、たよりの作成(10%)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じて適時説明プリントを配布する。

《参考図書》

いちばんやさしいパワーポイント超入門 Office 2021/Microsoft 365対応(一冊に凝縮) 早田絵里著 SBクリエイティブ 2022/7/21

《授業時間外学習》

授業に積極的に参加するとともに、完成度の高い作品が作成できるように努力すること。毎回の授業について、復習を中心に4時間の授業時間外学習が必要である。つまり本授業では60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》

作成した作品や発表内容についてその場で口頭でフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	電子紙芝居の概要	電子紙芝居とはどのようなものか。これまでの作品を見る。 準備学習：ペイントを起動し絵を描いてみる。
2	電子紙芝居作成で使用するソフトウェア	電子紙芝居を作るためのソフトウェア(ペイント・パワーポイント・エクセル) 準備学習：パワーポイントを起動し、「PowerPointへようこそ」を学習してみる。
3	電子紙芝居の計画	童謡や童話を題材とした子ども向け電子紙芝居作成(案作成・完成までの計画作成) 準備学習：どのような作品にするのかデザインを作成しておくこと。
4	電子紙芝居の作成1 パーツ作成	童謡や童話を題材とした子ども向け電子紙芝居作成(画面作り・部品作り) 準備学習：作品のデザインや色彩などを決めておくこと。
5	電子紙芝居の作成2 スライド作成	童謡や童話を題材とした子ども向け電子紙芝居作成(画面作り) 準備学習：作品のデザインや色彩などを決めておくこと。
6	電子紙芝居の完成と提出	童謡や童話を題材とした子ども向け電子紙芝居作成(完成・提出) 準備学習：提出のためある程度作品を完成させておくこと。
7	電子紙芝居の読み聞かせ(発表)①(一部)	3～5回に作成した電子紙芝居の読み聞かせ活動(実践) 準備学習：発表準備をしておくこと。
8	電子紙芝居の読み聞かせ(発表)②(二部)	電子紙芝居の読み聞かせ実践と評価(個人評価及び他者評価) 準備学習：発表の練習及び発表に関する評価規準をよく読んでおくこと。
9	電子紙芝居の読み聞かせ(発表)③(三部)	電子紙芝居の読み聞かせ実践と評価(個人評価及び他者評価) 準備学習：発表の練習及び発表に関する評価規準をよく読んでおくこと。
10	電子紙芝居の読み聞かせ(発表)④(四部)	電子紙芝居の読み聞かせ実践と評価(個人評価及び他者評価) 準備学習：発表の練習及び発表に関する評価規準をよく読んでおくこと。
11	園行事の実際①(クリスマス会の準備)	クリスマス会の出し物の計画の作成(幼児用・保育者用) グループディスカッション 準備学習：インターネット等を活用しクリスマス会について調べておくこと。
12	園行事の実際②(クリスマス会の実際・発表)	グループごとの発表(幼児用・保育者用)・個人評価及び他者評価 準備学習：リハーサルをグループごとに行っておくこと。
13	園行事の実際③(クリスマス会の実際・発表)	グループごとの発表(幼児用・保育者用)・個人評価及び他者評価 準備学習：リハーサルをグループごとに行っておくこと。
14	教育課程の実際①(食育たより)	食育について学ぶとともに、幼児期からの食育の重要性を啓発する「食育たより」の作成 準備学習：インターネットで幼児期における食育の重要性について調べておくこと
15	教育課程の実際②(安全・安心のたより)	幼児の健康(安全・安心)について学び、幼児の安全・安心に関するたよりの作成 準備学習：インターネットで幼児施設等の安全・安心について調べておくこと。

《専門科目》

科目名	保育のピアノ応用Ⅱ				
担当者氏名	平峯 章生、根岸 恭子、山田 真澄、渡邊 公実子、脇岡 龍耶				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input checked="" type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

本授業では保育の現場での実践をより意識した童謡の弾き歌いや、ピアノの演奏技術の向上を目指した学習を行う。短時間で童謡伴奏などを習得する技術を身につけ、採用試験のための準備、また、定期試験対応を意識した授業内容とする。

《テキスト》

越智光輝「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ!」三恵社

《参考図書》

- 進捗状況に応じて次の①～③より各自で用意する。
 - 全訳バイエル 全音楽譜出版社
 - ブルクミュラー25練習曲 全音楽譜出版社
 - ソナチネアルバムⅠ巻 全音楽譜出版社
- 実習、採用試験にあたって幼稚園、保育所、認定こども園等から指定された伴奏を有する楽曲

《授業の到達目標》

- 童謡の弾き歌いは伴奏の難易度により取得点数が異なるが、その合計が合格基準の点数を満たすことができる。
- 参考図書①から③のピアノ曲が1曲演奏できる。
- 簡単な初見視奏ができる。
- 指定された伴奏用和音の練習曲を弾くことができる。

《授業時間外学習》

授業（個人レッスン）は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つかった課題を解決する場と捉え、教員から提示された課題を自己学習して次の授業に備える。（本授業では15時間の時間外学習が必要です。）

《成績評価の方法》

ピアノ実技成果発表50%、童謡弾き歌い、もしくは童謡の初見伴奏45%、伴奏用和音の練習曲5%で総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

各課題については、毎授業、時間内に実技の個人指導を行い、適宜コメントする。ピアノ実技成果発表の実施後には、口頭で改善点を個別にフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	学習の進め方 童謡の弾き歌いの練習	授業内容と方法の説明、受講グループ及びピアノ曲決定／童謡の弾き歌い、及び伴奏用和音の練習曲 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
2	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:1週目に決定したピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、3週目に発表する童謡 3・4班:1週目に決定した童謡等の発表 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
3	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:2週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:1週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び4週目に発表する童謡 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
4	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:2週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び5週目に発表する童謡 3・4班:3週目に取り組んだ童謡等の発表 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
5	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:4週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:3週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び6週目に発表する童謡 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
6	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:4週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び7週目に発表する童謡 3・4班:5週目に取り組んだ童謡等の発表 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
7	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:6週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:5週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び8週目に発表する童謡 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
8	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:6週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び9週目に発表する童謡 3・4班:7週目に取り組んだ童謡等の発表 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
9	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:8週目に取り組んだ童謡等の発表、3・4班:7週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び10週目に発表する童謡 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
10	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:8週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び11週目に発表する童謡 3・4班:9週目に取り組んだ童謡等の発表 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
11	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:10週目に取り組んだ童謡等の発表 3・4班:9週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び12週目に発表する童謡 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
12	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:10週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び13週目に発表する童謡 3・4班:11週目に取り組んだ童謡等の発表 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
13	童謡伴奏もしくは視奏・ピアノ曲の習得	1・2班:12週目に取り組んだ童謡等の発表 3・4班:11週目に提示されたピアノ曲、伴奏用和音の練習曲、及び15週目に発表する童謡 [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
14	ピアノ実技成果発表	ピアノ曲の実技演奏（ノーカット、リピートなし）および指定された伴奏用和音の練習曲の演奏。試験後、実技演奏の振り返り [時間外学習]:次回に向けた練習(1時間)
15	童謡伴奏の発表 実技成果発表の振り返り	童謡の弾き歌いの発表、伴奏用和音の練習曲のまとめ 最終評価の確認 [時間外学習]:発表のための練習(1時間)

《専門科目》

科目名	子どもの体育				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

幼児期は、遊びを中心とする十分な身体活動より多様な動きの獲得や体力・運動能力等を培うことが重要である。本科目では、運動遊びや運動の楽しさを体験するとともに、指導に必要な、身体能力・運動技能・運動への意欲を高め、自らの体力の向上と健康の保持増進を行う。各自が教材（動きや運動遊び、ルール）のアイデアを持ち寄り、体験する。なお、本授業では、クエスタントを用いて中間理解度把握を行う。

《授業の到達目標》

①幼児期の運動文化（運動遊び）を体験することにより、多様な幼児体育の活動について修得し実践することができる。同時に、②主体的な運動遊びの工夫と創造により柔軟な発想力や応用力をもって遊びを考えることができる。

《成績評価の方法》

授業における提出課題（20%）、発表(20%)、授業への取り組み状況（意欲・主体性・積極性・運動量等）（20%）、学習ノート（40%）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

テキストは特に定めない。

《参考図書》

○荒木美那子 他編著:幼児の楽しい運動学習 ○幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
 ○前橋明著:0~5歳児の運動遊び指導百科 ひかりのくに 2016
 ○岩崎洋子編:保育と幼児期の運動あそび 萌文書林 2018 ○池田裕恵編:子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」第二版 杏林書院 2018

《授業時間外学習》

予習として、各回の[準備学習]に示した内容を行い授業に臨むこと。復習として、各回の学習内容について、授業で学んだことをノートにまとめるとともに、自分なりのアイデアを描き加えていくこと（本科目は15時間の授業時間外学習が必要です。したがって、各回において、予習復習合わせて1時間の時間外学習を行ってください）。

《課題に対するフィードバック等》

授業において提出を求めた課題は、コメントを付して授業内でフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	移動運動	色々な移動運動を行う [準備学習]移動運動の種類を考えておく
2	子どもの体操(1)既成の体操	子どもの体操を通して、自身の体の各部位の動きを意識する [準備学習]ラジオ体操を行っておく
3	子どもの体操(2)体操の創作	既製曲を活用して子どもの体操を創作する(グループワーク) [準備学習]活用できる曲を探しておく
4	子どもの体操(3)創作体操の発表	作成した体操の発表(グループワーク)と解説書を完成させる [準備学習]解説書案を作成すると共に、発表に向けて練習しておく
5	保育における運動遊び	運動遊びを考え・実行する上で留意していることについて講義する [準備学習]実習等の経験から子どもの遊びの様子についてまとめておく
6	遊具を使わない遊び(1)鬼遊び	鬼遊びを楽しみ、子どもの鬼遊びについて考える [準備学習]どのような鬼遊びがあるか調べておく
7	遊具を使わない遊び(2)ジャンケン遊び	ジャンケンを活用した遊びを楽しみ、子どものジャンケン遊びについて考える [準備学習]「ジャンケン遊び」には、どのような遊びがあるか調べておく
8	遊具を使わない遊び(3)2人組の遊び	2人組の遊びを楽しみ、子どもの2人組の遊びについて考える [準備学習]「2人組の遊び」には、どのような遊びがあるか調べておく
9	遊具を使わない遊び(4)力くらべの遊び	力くらべの遊びを楽しみ、子どもの力くらべの遊びについて考える [準備学習]「力くらべの遊び」には、どのような遊びがあるか調べておく
10	運動会一種目を考える	運動会の種目を考える(グループワーク) [準備学習]運動会の種目について、本やインターネットで調べておく
11	小さい遊具を使った遊び	ボール、フープ等を使った遊びを楽しみ、子どもの遊びについて考える [準備学習]ボール・ロープ・フープ等を使った遊びを調べておく
12	身近な物を使った遊び-紙皿・紙コップ	フライングディスクを作って遊ぶ [準備学習]フライングディスクを使った遊びを調べておく
13	日本の伝統的な遊び	独楽回しが出来るようになる [準備学習]保育に生かせる伝統的な遊びを調べておく
14	からだ遊び(1)創作	言葉遊びを活用して動きを考える [準備学習]「じゅげむ」を覚えてくる
15	からだ遊び(2)発表	創作したからだ遊びを発表する [準備学習]発表に向けて練習しておく

《専門科目》

科目名	子どもと遊び				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

この授業では、遊びの理論や保育教材について、事例検討やグループディスカッションを通して理解を深める。また、保育現場での観察などのフィールドワークを通して、保育と保育者の関わりについて考察する。

《テキスト》

プリントを配付する。

《参考図書》

授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

- ①子どもの成長・発達における遊びの意義を説明することができる。
- ②遊びにおける保育者の関わりについて、自身の考えを述べることができる。
- ③遊びの理論について、基本的な内容を理解し説明することができる。

《授業時間外学習》

事前学習として事前に配付した資料を読み、課題に取り組むこと。
本授業では60時間の時間外学習を必要とする。

《成績評価の方法》

授業への積極的な取り組み・課題等の提出物 60%
フィールドワークへの参加とミニレポート 40%

総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

ミニレポートについては授業内で返却し、コメントする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	子どもにとっての「遊び」	子どもの成長・発達と「遊び」について 事前学習：子どもの頃経験した遊びの種類や内容を振り返っておく
2	遊びの理論① ホイジンガ	ホイジンガによる遊びの理論 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
3	遊びの理論② カイヨワ	カイヨワによる遊びの理論 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
4	フィールドワーク① 保育所等における観察	保育所等における遊びの観察 事前学習：訪問する園について調べておく
5	フィールドワーク①の報告会	フィールドワーク①についての報告会 事前学習：観察記録をもとにミニレポートを作成する
6	幼児教育における玩具① フレーベルの恩物	フレーベルの恩物について 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
7	幼児教育における玩具② モンテッソーリ教具	モンテッソーリ教具について 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
8	子どもと絵本	子どもの成長・発達における絵本の役割 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
9	子どもとメディア	子ども向けアニメ番組について 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
10	子どものための建築	保育所・幼稚園等の建築について 事前学習：訪問する園について調べておく
11	フィールドワーク② 子育て支援施設での観察	子育て支援施設における遊びの観察 事前学習：訪問する園について調べておく
12	フィールドワーク②の報告会	フィールドワーク②についての報告会 事前学習：観察記録をもとにミニレポートを作成する
13	幼児教育のオルタナティブ① 森のようちえん	森のようちえんの取り組みについて 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
14	幼児教育のオルタナティブ② インクルーシブ保育	インクルーシブ保育の取り組みについて 事前学習：事前に配付したプリントを読んでおく
15	全体のまとめと振り返り	全体のまとめと振り返り 事前学習：授業全体の内容を振り返り、ポイントをまとめておく

《専門科目》

科目名	保育のための調理基礎				
担当者氏名	田中 祐作、米澤 澄子、田中 辰也				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-2 知識・技能 ◎ 3-3 汎用的技能			

《授業の概要》

子供と共に安全に調理することができ、将来の保育現場の食育に活かせる料理を学び、その活動の大切さを理解するために学修する。グループで実技の習得状況を確認しながら進めていく。

《テキスト》

必要に応じてプリント配布

《参考図書》

高橋書店：からだに美味しい野菜の便利帳

《授業の到達目標》

①調理をする上での衛生管理について説明できる。②安全に正しく調理器具を使用することができる。③簡単な調理作業子どもに教えることができる。④各授業で制作した料理のポイントと楽しさを伝えることができる。

《授業時間外学習》

復習を兼ねて毎回の授業の内容と学修記録として毎回の内容の感想をノートにまとめる。授業最終回にノートの提出を求めます。本授業は29時間の時間外学修が必要です。

《成績評価の方法》

評価は授業態度40% ノート・レポート提出30% 学修記録30%とし総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

実習時はエプロン・三角巾・指定靴を着用し、爪は短く切る。必要に応じて修得状況を確認しその都度不十分な部分を口頭でフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	調理実習の心得・実習室の使い方（田中辰）	手洗い等の衛生面、実習室の使い方、正しい包丁の持ち方について【時間外学習】本時の復習をする。
2	食材と相性パン料理（田中祐）	色々な食材使いパン使用して発想と組み立て想像豊かさ学ぶ【時間外学習】本時の復習をする。
3	基本生地蒸し方を学ぶ（米澤）	プリンアラモード【時間外学習】本時の復習をする。
4	パンの基礎（米澤）	パンを学ぶ【時間外学習】本時の復習をする。
5	一緒に楽しく作れる料理（田中祐）	トルティーヤを作る。好き嫌いをなくすアイデア料理を学ぶ。【時間外学習】本時の復習をする。
6	食育に活用できるイタリア料理の献立（田中辰）	子どもと共同して作業できる、捏ねる・丸める等の工程を取り入れた献立【時間外学習】本時の復習をする。
7	旬のお菓子（米澤）	製菓のデザートを簡易にアレンジしたおやつの実習。プリン、ババロア、シューアラクレームなどの実習。【時間外学習】本時の復習をする。
8	色彩りお弁当（田中祐）	お弁当箱の選び方・詰め方・適切な量・彩りについて学ぶ。【時間外学習】本時の復習をする。
9	・	・
10	・	・
11	・	・
12	・	・
13	・	・
14	・	・
15	・	・

《専門科目》

科目名	保育・教職実践演習				
担当者氏名	中村 敏男、桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育者として必要な基本的資質や能力が形成されたかについて確認するために、グループワークや発表学修を通して、保育者としての自分のあり方について考え、不足する部分を補い、課題を見出し、保育者に求められる実践力を高める。なお、本授業では、クエスタントを用いて、中間理解度把握を行う。

《テキスト》

必要に応じて授業担当者がプリントを配布する

《参考図書》

小田豊監修 中坪史典編著「保育・幼児教育方法論」建帛社 2019
 埼玉県幼稚園教育課程編成要領 2018

《授業の到達目標》

- ①実習をもとに幼児理解の方法を具体的に説明できる。
- ②保育者に求められる資質について具体的に説明できる。
- ③実習中に行った実践について改善点を把握できる。
- ④実際の園行事等に参加し、保育実践力を身につけることができる。
- ⑤幼児を対象とした実践的活動の企画・立案・実践から応用力を身につけることができる。

《授業時間外学習》

準備学習を十分に行い、必要に応じて参考文献を読んでおく。意欲的な発言・探究活動を重視するとともに、事後学習として省察内容の定着を目指す。（本科目では30時間の時間外学修が必要です。）

《成績評価の方法》

校外の実習を含めた授業内で行うグループワーク・発表学修50%、及び授業における課題レポートの内容50%で評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

本授業を履修できるのは、教育実習Ⅱ・保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲのいずれかを完了した者とする。レポートは次回以降の授業でポイントや注意点を説明するなど適宜フィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	保育者としての使命	社会が求める保育者の資質、保育者の責務について考える。 準備学習：1年次「保育者・教職原論」の関連項目を見直しておくこと
2	幼児理解	子どもの様子をもとに、幼児理解の内容や方法について考える。（映像資料に対するグループ討議）準備学習：実習中の子どもの様子で、気になった事案を抽出しておくこと
3	子どもの健康	実習の経験をもとに、こどもの健康や対応のし方について考える。 準備学習：実習先の園の健康指導の状況を発表できるように準備しておくこと
4	遊びと発達	子どもの遊びの様子に注目し、子どもの発達について考える。（映像資料に対するグループ討議）準備学習：年齢ごとの一般的な子どもの発達の特性を見直しておくこと
5	保育における食育	食育の大切さや、指導上の留意点について考える。 準備学習：実習中に行った食育の状況を発表できるようにしておくこと
6	障害児への理解と援助	様々な障害の状況を知り、対応や援助について学ぶ。（映像資料に対するグループ討議） 準備学習：実習中の、特別な配慮が必要な子どもへの対応についてまとめておくこと
7	ことばを育てる	子どもの言葉の実態を確認し、言葉の発達を支える関わり方を考える。（グループワーク） 準備学習：言葉の発達を促すための実習園の様々な工夫についてまとめておくこと
8	保護者との連携	保護者との連携の在り方、具体的方法についてロールプレイを通して学ぶ。 準備学習：実習中、保護者との連携で気づいたことを発表できるように準備すること
9	保育における危機管理	実習の経験をもとに、保育における危機管理について考える。（グループワーク） 準備学習：具体的な「危機」の例を3つ考え、保育者の動きについて考えておくこと
10	クラス経営における担任の役割	担任の集団指導・個人指導の在り方について考える。（グループワーク、発表学修） 準備学習：担任となることを想定して、不安に感じることを書き出しておくこと
11	保育者間の連携	日常の連携の在り方や、園の行事における保育者間の連携の在り方について考える。準備学習：実習園での保育者間の連携の状況をポータルサイトに事前に入力しておくこと
12	幼保小連携の意義	幼保小連携の意義と小1プロブレムへの対応について学ぶ。 準備学習：「小1プロブレム」の具体的内容をインターネット等で調べておくこと
13	ストレスへの対応	専門職業人として、ストレスへの対応方法を学ぶ。 準備学習：自分にとってどのような状況がストレスとなるか想像して書き出すこと
14	履修カルテ入力	後期の授業の省察と保育者としての9月時点での課題は克服できたかを検討する。（グループワーク、発表学修） 事前学習：履修した全ての科目の入力を済ませておくこと
15	学び、成長し続ける保育者	よい保育者、学び・成長し続ける保育者となるためのポイントを考える。 準備学習：保育者を目指した理由を思い出し、今後の課題を考えておくこと

《専門科目》

科目名	保育・教職実践演習				
担当者氏名	中村 敏男、桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-3 汎用的技能 ○ 4-4 態度・志向性 ◎ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

保育者として必要な基本的資質や能力が形成されたかについて確認するために、グループワークや発表学修を通して、保育者としての自分のあり方について考え、不足する部分を補い、課題を見出し、保育者に求められる実践力を高める。なお、本授業では、クエスタントを用いて中間理解度把握を行う。

《授業の到達目標》

- ①実習経験をもとに幼児理解の方法を具体的に説明できる。
- ②保育者に求められる資質について具体的に説明できる。
- ③実習中に行った実践について改善点を把握できる。
- ④実際の園行事等に参加し、保育実践力を身につけることができる。
- ⑤幼児を対象とした実践的活動の企画・立案・実践から応用力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

校外での実習を含めた授業内で行うグループワーク・発表学修50%、及び授業における課題レポートの内容50%で評価し、60点以上を合格とする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	履修カルテ	履修カルテの意味の理解、内容の省察、今後の学習を見直し。準備学習：全ての科目の入力を済ませる。実習の省察、後期に向けての課題をポータルサイトに入力すること。
2	実習の振り返りと再検討 ①課題の気づき	実習の中で気づいた自らの課題を洗い出し、グループで討議する。(グループワーク) 準備学習：実習中に感じたり気づいたりした課題等についてまとめておくこと。
3	実習の振り返りと討議② グループ討議の発表	実習を通しての課題に対するグループ討議、テーマごとに発表。(グループワーク、発表学修) 準備学習：発表に向けて討議の結果を整理しておくこと。
4	園外保育の計画	園外保育(遠足)として園児を引率するケースを想定した計画を作成する。(グループワーク) 準備学習：グループで検討するための内容を準備しておくこと。
5	園外保育の実地踏査① 学びの内容	遠足場面を想定し、実際に校外施設に行き、幼児の学びの場の観点で考える。(グループワーク、フィールドワーク) 準備学習：どんな学びの場面が実施可能かを準備する。
6	園外保育の実地踏査② 安全の確保	遠足場面を想定し、実際に校外施設に行き、幼児の健康管理・安全確保の観点で考える。(グループワーク、フィールドワーク) 準備学習：想定される危機管理等を準備。
7	園外保育の実地踏査③ま とめ	実地踏査のまとめと報告。(グループワーク、発表学修) 準備学習：校外施設で感じた課題等についてまとめておく。
8	実習報告会①発表資料の 作成	実習全体で気づいた点をグループでまとめ、1年生に伝える資料について検討する。(グループワーク) 準備学習：できるアドバイスについて考えておく。
9	実習報告会②クラス内	実習全体で気づいた点をテーマごとにグループでまとめ、クラス内で発表する。(発表学修) 準備学習：効果的なプレゼンの方法、物品などを準備しておく。
10	実習報告会③1年生に向け て	実習全体で気づいた点をテーマごとにグループでまとめ、1年生に伝える。(発表学修) 準備学習：前回報告会の反省をもとに、プレゼン方法の改良を準備する。
11	フィールドワーク・園行 事①運営の実際	園での行事・ボランティアに参加し、行事等の運営の実際について学ぶ。準備学習：園へのアポイント、必要な準備を整えてくこと。
12	フィールドワーク・園行 事②保育者の動き	園での行事・ボランティアに参加し、保育者間の連携の様子等について学ぶ。事後学習：反省点などをまとめておくこと。
13	フィールドワーク・園行 事③まとめ	行事の進め方、保護者・地域・保育者同士の連携の省察。(園での行事・ボランティア) (発表学修) 準備学習：気付いた事、反省点などをまとめておくこと。
14	部分実習の再検討Ⅰ (課題の気づき)	1年生の指導案の添削指導を通して、指導者からの指導、実習の状況、指導案作成を振り返る。(グループワーク) 事前学習：実習中の指導案を見直しておく。
15	部分実習の再検討Ⅱ (討議と発表)	子どもとの関わりの中で、課題ごとのグループ協議により、解決の方策を探る。(グループワーク、発表学修) 事後学習：子どもとの関わり方に関する改善点をまとめる。

《テキスト》

必要に応じて授業担当者がプリントを配布する

《参考図書》

- 小田豊・中坪史典編著「保育・幼児教育方法論」建帛社 2019
 埼玉県幼稚園教育課程編成要領 2018
 神長美津子・田代幸代編著「保育・教職実践演習」中央法規 2025
 大豆生田啓友 他編著「保育者論」ミネルヴァ書房 2023

《授業時間外学習》

準備学習を十分に行い、必要に応じて参考文献を読んでおく。意欲的な発言・探究活動を重視するとともに、事後学習として省察内容の定着を目指す。(本科目では30時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

本授業を履修できるのは、教育実習Ⅱ・保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲのいずれかを完了した者とする。レポートは次回以降の授業でポイントや注意点を口頭等にてフィードバックする。